

第10回全国バス学習研究集会

ご案内

期日 昭和50年11月28日(金)29日(土)
主題 ひとりひとりを生かす教育
会場 愛知県春日井市立東部中学校
(小・中学校合同)



主催 全国バス学習研究会
愛知県春日井市立東部中学校
後援 愛知県教育委員会
愛知県春日井市教育委員会

全国の諸先生方にはますますご健勝にて毎日の教育活動にご精励のこと心より
お喜び申し上げます。

めまぐるしく変転する社会の中で日々実践している授業の改造が各地で試みら
れています。この要請を受けてわたしたちはバズ学習研究集会を全国各地で開催
しその成果が高く評価されています。子どもたちの幸せを志向した第10回全国バ
ズ学習研究集会を小・中学校合同で下記のとおり開催しますので、先生方多数の
ご参加をいただきたく、ご案内申し上げます。

全国バズ学習研究会長 梶田 稲 司
春日井市立東部中学校長

記

1. 主 題 ひとりひとりを生かす教育
2. 期 日 昭和50年11月28日(金) 29日(土)
3. 会 場 愛知県春日井市立東部中学校 (第1日 28日)
愛知県労働者研修センター (第2日 29日)
4. 日 程 第1日 28日

8:30	9:00	9:40	10:35	11:00	11:20	12:05	12:50	13:40	14:00	16:30	18:00	19:00
受付	開会行事	公開授業	短学活	特設授業	昼食	授業研究		分科会		会場移動 (研修センター)	夕(懇談食)	

第2日 29日

8:30	9:00	10:30	10:20	11:30	11:50	12:00
受付	全体討議	講演	質疑	閉会行事		

5. 開会行事 9:00～9:40

- (1) 挨拶 春日井市立東部中学校長 梶田 稲 司
- (2) 祝 辞 春日井市教育委員会教育長 伊藤 一郎
- (3) 歓迎の辞 春日井市立東部中学校育成会長 中野 久一
- (4) 授業の視点説明 春日井市立東部中学校教務主任 右高 徳夫
- (5) 日程説明 春日井市立東部中学校教頭 小山 克己

- 6. 公開授業 9:50 ~ 10:35
- 7. 短学活 10:35 ~ 11:00
- 8. 特設授業 11:20 ~ 12:05
- 9. 昼食 12:05 ~ 12:50
- 10. 授業研究 12:50 ~ 13:40

特設授業を中心としての授業研究と協議

- 11. 分科会 14:00 ~ 16:30 (小・中学校合同) (関連表は3.4頁にあります)

- 12. 全体討議 9:00 ~ 10:20 (第2日 29日)

分科会での問題点の提起と討議

司会者 春日井市立高座小学校長 荻原克己

助言者 名古屋大学教授 塩田芳久

名古屋大学助教授 梶田正己

- 13. 講演 10:30 ~ 11:30

講師 名古屋大学教授 塩田芳久先生

演題 教育の個別化とバズ学習

- 14. 質疑 11:30 ~ 11:50

司会者 豊川市立中部中学校長 白井仁

- 15. 閉会行事 11:50 ~ 12:00

謝辞 春日井市立東部中学校長 梶田稲司

テーマ別分科会 (小・中学校合同)

	分科会テーマ	テーマの概要
1	教育機器の活用	認知的目標と態度的目標の同時達成をはかるバズ学習において、主として認知目標達成の効率化を目的として開発された教育機器が、どのように調和し活用されるのか。
2	復習バズ	いわゆる補習教育を乗り越えるために生れた復習バズが現在どのように進められているのか。 短学活の概念を拡大し、その内容を具体化し「その日の学習事項は、その日のうちに確実に」するための方法と進め方。
3	学級集団づくり	ひとりひとりを生かすことと、学級集団を成長させるとの統合をどう具体化するのか。
4	態度目標の具体化	認知目標と同時に態度目標の達成をめざすべき授業において、それを意図的・具体的に推しすすめるための計画と実践のありかた。とくに学習態度・対人的態度・社会的態度などについて。
5	学習課題と評価 1 (小学校)	学習目標の具体化としての課題が児童生徒に問題状況をつくらせる。それに取り組むことにより学習が成立するわけだが、目標の達成度を即時的に評価したえず自己調整をはからなければならない。つまり授業において学習課題への取り組みと、その目標達成状況の評価とは表裏一体のものである。それを具体的にどう設定し、どのように推し進めるか。
6	学習課題と評価 2 (中学校)	
7	生徒指導・生活指導	生徒指導は従来教科指導に対比する概念として使用されてきたが、ここでは学校生活全体において、自己理解・自己指導・自己実現をめざす統合的な指導として位置づけたい。そのための計画と実践のしかた。
8	バズ学習の基本構想	なぜバズ学習にとりくむか、バズ学習で何をねらうのか、バズ学習体制をどのように作りあげるか、それらに関する理論的・実践的展開。

助 言 者	司 会 者	提 案 校
兵庫 城南小 長 永 井 辰 夫 春日井市教委主事 児 島 逸 夫	徳島 福島小 頭 柳 沢 義 彦 春日井 知多中 教 田 中 倭 人	長崎県 長崎市立 磨屋小学校 山梨県 富沢町立 万沢中学校 兵庫県 姫路市立 城南小学校 愛知県 春日井市立 東部中学校
高知 奈判利小 頭 横 山 文 介 愛知 県教委主事 西 尾 為 一	新潟 関屋中 頭 船 越 和 吉 春日井 篠木小 頭 井 上 正 己	高知県 室戸市立 吉良川中学校 静岡県 静岡市立 大里中学校 愛知県 春日井市立 知多中学校 高知県 安芸市立 奈判利小学校
広島 安浦中 長 山 根 正 春日井 知多中 長 伊 藤 浩	長崎 銭座小 頭 荒 木 真寿男 豊川 千両小 諭 丸 山 正 克	愛知県 豊川市立 中部中学校 兵庫県 姫路市立 安室小学校 兵庫県 姫路市立 豊富中学校 広島県 安浦町立 安浦中学校
豊川 中部中 長 白 井 仁 香川 筆岡小 長 高 橋 茂 雄	豊田 小清水小 教 竹 本 篤 松 春日井 高座小 頭 西 村 精 爾	新潟県 新潟市立 曾野木中学校 徳島県 徳島市立 福島小学校 愛知県 一宮市立 浅井中学校 愛知県 豊田市立 小清水小学校
兵庫 小宅小 長 金 治 晴 治 春日井 勝川小 長 小 川 茂 成	兵庫 飾磨中部中 頭 宿 南 勝之助 兵庫姫路市教委主事 吉 田 武 男	兵庫県 竜野市立 小宅小学校 青森県 五所ヶ原市立 五所ヶ原小学校 兵庫県 姫路市立 津田小学校 愛知県 春日井市立 高座小学校
兵庫 日新中 長 前 田 義 夫 春日井 高座小 長 荻 原 克 己	東京 小平第四中 頭 望 月 和三郎 春日井 松原中 諭 赤 羽 寿 行	兵庫県 姫路市立 飾磨中部中学校 兵庫県 尼ヶ崎市立 日新中学校 広島県 豊浜町立 豊浜中学校 愛知県 春日井市立 東部中学校
徳島 元福島小 長 四 宮 恒 夫 春日井市教委主事 大 野 昱 郎	徳島 沢田小 頭 古 川 巖 高知 奈判利中 頭 岩 村 俊 一	大阪府 寝屋川市立 寝屋川第四中学校 兵庫県 姫路市立 高丘中学校 山梨県 南部町立 南部中学校 愛知県 春日井市立 藤山台中学校
広島 豊中 長 新 田 正 彦 滋賀 五個荘小 長 森 寅 三	長野 田中小 頭 山 田 進 春日井 神領小 教 今 尾 啓 一	滋賀県 五個荘町立 五個荘小学校 香川県 善通寺市立 筆岡小学校 広島県 豊田町立 豊中学校 高知県 安芸市立 奈判利中学校 愛知県 春日井市立 神領小学校

昭和50年度

学校要覧

校歌

一、東に遠く雲ひかる
猿投の高嶺のぞみつつ
輝くひとみ永遠の
真理の道を求めゆく
ああ我等は東中生

二、篠木の丘の篠世の
清き緑の葉を描く
校旗をかざして堂々と
理想の道を進みゆく
ああ我等は東中生

三、希望を胸に建設の
命新によみがえる
ゆくては広し洋々の
文化の道をめざしゆく
ああ我等は東中生



春日井市立東部中学校

〒486 春日井市篠木町6の1630 TEL(代)0568-81-2664

1 歴代校長

初代	安藤 直太郎	昭和23年4月1日 ~ 昭和25年5月31日
第2代	伊藤 健	昭和25年6月1日 ~ 昭和31年3月31日
2	加藤 銀男	昭和31年4月1日 ~ 昭和34年3月31日
4	井上 義	昭和34年4月1日 ~ 昭和34年7月31日
5	水野 吉三郎	昭和34年8月1日 ~ 昭和38年3月31日
6	森川 兼美	昭和38年4月1日 ~ 昭和40年3月31日
7	伊藤 信夫	昭和40年4月1日 ~ 昭和45年3月31日
8	梶田 稲司	昭和45年4月1日 ~

2 沿革の概要

- 昭和23年4月1日 篠木小学校の一部を借用して開校
- 昭和24年5月18日 県教委より職業教育研究の指定を受ける
- 昭和24年7月13日 現地点に新校舎完工（第1次 木造1棟12教室）
- 昭和25年11月20日 県教委より学校施設優良校として表彰を受ける
- 昭和28年12月23日 体育館完工
- 昭和31年4月19日 県教委より中学校進路指導研究の指定を受ける
- 昭和32年10月29日 開校10周年記念式典開催ならびに同窓会設立
- 昭和34年9月26日 伊勢湾台風により甚大な被害を受ける
- 昭和35年4月30日 県教委より理科教育研究の指定を受ける
- 昭和36年4月10日 県教委より技術・家庭科教育研究の指定を受ける
- 昭和36年8月27日 鉄筋新校舎完工（1棟3階 普通教室9・特別教室2）
- 昭和38年11月16日 愛日地方中学校体育大会サッカー2年連続優勝
- 昭和39年4月1日 県教委より交通安全指導研究の指定を受ける
- 昭和39年7月2日 プール完工
- 昭和42年4月1日 春日井市教委より学習形態研究（2年継続）の指定を受ける
- 昭和42年4月4日 特殊学級開設
- 昭和43年7月24日 愛日地方中学校体育大会男子ハンドボール（6年連続）サッカー（2年連続）優勝
- 昭和43年12月3日 学習形態研究発表「小集団による学習指導の研究」について
- 昭和44年9月20日 愛知県学生科学賞作品展において「春日井の地質」最優秀賞
「春日井中央部における蚊の研究」優秀賞受賞
- 昭和45年4月14日 全国創意工夫育成功労学校賞作品展において科学技術庁長官賞受賞
- 昭和45年9月19日 愛知県学生科学賞作品展において「春日井の食中植物」「東谷山の地形」ともに最優秀賞受賞
- 昭和45年10月23日 春日井市歯の衛生推進コンクールにおいて最優秀賞受賞
- 昭和45年12月5日 第2回全国バズ学習研究集会中学校の部、本校にて開催 研究発表「授業構造におけるバズの組織化」について
- 昭和46年3月30日 鉄筋新館校舎第1期分完工（1棟3階普通教室6）
- 昭和46年9月30日 愛知県学生科学賞作品展において「庄内川礫の研究」最優秀賞
「ゴキブリの研究」優秀賞受賞
- 昭和47年1月16日 日本学生科学賞作品展において入賞
- 昭和47年2月29日 鉄筋本館校舎完工（1棟3階普通教室4 特別教室8 その他9）
- 昭和47年4月6日 文部省より音楽科教科書研究協力校の指定を受ける
- 昭和47年7月 第1回春日井市中学校体育大会において男子ハンドボール、サッカー、男女バスケットボール、男子水泳、男女陸上優勝

- 昭和48年3月22日 鉄筋新校舎第2期分完工（1棟3階普通教室9）
- 昭和48年11月10日 開校25周年式典開催、記念庭園完成
- 昭和49年7月 第3回春日井市中学校体育大会において水泳男子3年連続優勝
- 昭和50年4月1日 本校より松原中学校分離独立（14学級600名）
- 昭和50年7月 第4回春日井市中学校体育大会において水泳女子3年連続優勝
- 昭和50年10月1日 中日教育賞受賞（人間関係を基盤とする授業の確立）

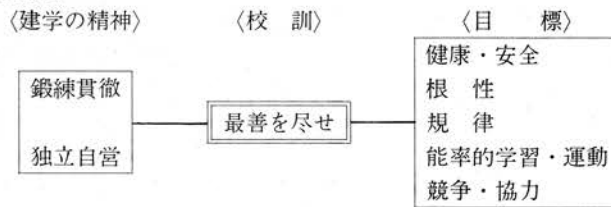
3 位置と校地校舎

東経 137°0'7" 北緯 35°15'12"
 校地 23,758㎡ 建物敷地 7,822㎡ 運動場 15,383㎡ その他 553㎡
 普通教室 30 特別教室 12 その他 5

4 教育目標

- (1) 本校の教育目標
 心身ともにすこやかで、物事を正しく判断し、国家社会の発展につくす日本人を育成する。

- (2) 経営方針



- (3) 本年度の重点的努力点

- バズ学習による学習体制を基盤に授業の充実をはかる
- 現職教育を強化し、指導体制、学習体制を確立する
- 生徒の健康保持増進をはかり、安全指導を徹底して事故防止につとめる
- 家庭との協力体制を強化し、生徒の主体的な生活態度の育成につとめる
- 校舎改築により、生徒とともに教育的環境の整備につとめる

5 職員組織と学級編成（10月1日 現在）

- 校長 梶田稲司
- 教頭 小山克己
- 教務主任 右高德夫
- 校務主任 松本重雄
- 学年主任1) 阿部吉一
- 学年主任2) 丹羽一男
- 学年主任3) 加藤孝史
- 養護教諭 水野歌子
- 事務職員 宮沢菊代
- 事務職員 野崎雅子
- 事務職員 亀井美佐枝
- 用務員 土田あや子

学級数30 生徒数(男 593女 595) 計 1,188名 10月1日現在

学年		1										計
組		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	10
担任		渡辺浩	松本美	平井	長谷川祥	奥田川	永野	小森	細江	古村	小水野	林都
生徒数	男	22	22	22	21	22	21	22	22	21	21	216
	女	19	19	19	19	19	20	19	19	19	20	192
	計	41	41	41	40	41	41	41	41	40	41	408

学年		2										計
組		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	10
担任		岡村	川口	加藤洋	林川村	戸田	影山	今泉	堀場	加藤憲	佐長谷	善川
生徒数	男	19	18	19	18	19	18	19	19	18	19	186
	女	22	23	22	23	22	22	22	21	23	22	222
	計	41	41	41	41	41	40	41	40	41	41	408

学年所属 田中・神戸

学年		3										特殊
組		1	2	3	4	5	6	7	8	9	9	15
担任		大脇	奥田政	沢村	石原	吉田	尾関	渡辺俊	加納	奥村浩		塚久
生徒数	男	21	20	21	21	21	21	21	21	21		187
	女	20	20	20	20	20	19	20	19	19		177
	計	41	40	41	41	41	40	41	40	40		364
												4
												5
												9

学年所属 奥村富・中条・宮崎

6 教育計画

(1) 授業時間配当表

		1	2	3	備考
必修 教科 科	国語	175 (5)	175 (5)	175 (5)	
	社会	140 (4)	140 (4)	175 (5)	
	数学	140 (4)	140 (4)	175 (5)	
	理科	140 (4)	140 (4)	140 (4)	
	音楽	70 (2)	70 (2)	35 (1)	
	美術	70 (2)	70 (2)	35 (1)	
	保健体育	125 (3 <small>課</small>)	125 (3 <small>課</small>)	125 (3 <small>課</small>)	
選択	技術・家庭	105 (3)	105 (3)	105 (3)	
	英語	140 (4)	140 (4)	140 (4)	全員
	道徳	35 (1)	35 (1)	35 (1)	
	特活	35 (1)	35 (1)	35 (1)	
特別動	学級の時間	50 (1 <small>課</small>)	50 (1 <small>課</small>)	50 (1 <small>課</small>)	
合計		1,225 (35)	1,225 (35)	1,225	

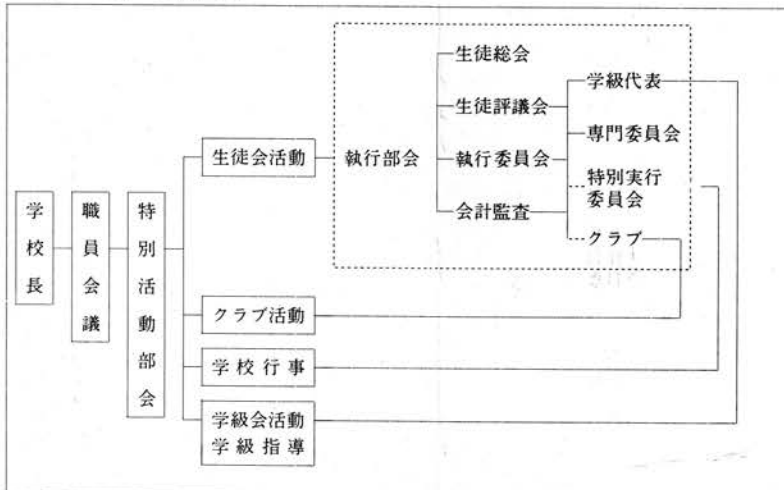
● 保体の3課、特活（学級の時間）の1課の週時間割の編成について
● () 内は週時間を示す。
保体は前期20週を週4時間、後期15週を週3時間とし、学級の時間は週1時間と年間に15時間を配当する。

(2) 週計画および日課表

月	八・〇	八・五	八・一〇	八・一五	九・一〇	九・一五	九・二〇	九・二五	一〇・一〇	一〇・一五	一〇・二〇	一〇・二五	一〇・三〇	一〇・三五	一〇・四〇
火	集会	短	第	第	第	第	給	清	放	第	第一時	クラブ	短	職員会	
水	清	学	一	二	三	四				五	第一時	学	委員会	活動会	
木		職	時	時	時	時	食	掃	課	時	第一時	活	教現	育職	
金	掃	打	道												
土							短								

● クラブ活動（前期）実施時間 3：25～4：20
● 水曜日第7時は、隔週に「委員会」を行ない、委員会のない日は学級会を優先

(3) 特別活動の運営組織



(4) 生徒会活動

	1年	2年	3年	計		1年	2年	3年	計
生徒会役員	0	3	3	6	放送委員	4	5	5	14
生徒会議員	20	20	18	58	ヘルマーク委員	10	10	9	29
生活委員	30	30	27	87	営繕委員	10	10	9	29
広報委員	10	10	9	29	園芸委員	10	10	9	29
交通委員	10	10	9	29	選挙管理委員	20	20	18	58
給食委員	10	10	9	29					
保健委員	10	10	9	29					
清掃委員	10	10	9	29					

(5) クラブ活動

クラブ名	人員	クラブ名	人員	クラブ名	人員	
バスケットボール	男女 40 55	テニス	男女 51 56	卓球	男女 33 30	
バレーボール	男女 49 39	陸上	男女 58 25	野球	49	
ハンドボール	男女 38 26	水泳	男女 34 30	ソフトボール	37	
				サッカー	38	
				体操	39	
クラブ名	人員	クラブ名	人員	クラブ名	人員	
剣道	42	書道	26	郷土研究	37	
柔道	29	茶華	9	計	13	
		技芸	44	調理	26	
吹奏楽	32	英語	30	演劇	21	
合唱	41	科学	10	リコーダーアンサンブル	29	
美術	18	図書	13	15	クラブ	3

(6) 学校行事の年間計画

4月	入学式・分離式・始業式・交通安全・身体測定・健康診断・大掃除・通学団会・クラブ紹介・生徒会役員選挙・育成会総会
5月	修学旅行・校外学習・避難訓練・予防注射・中間テスト・家庭訪問
6月	体力測定・教育学習
7月	交通安全・期末テスト・個人懇談会・短縮授業・大掃除・林間学校・終業式・市中学校体育大会
8月	水泳大会
9月	始業式・作品展・短縮授業・交通安全・体育大会
10月	交通安全・生徒会役員選挙・校外学習・学級懇談会・中間テスト・クラブ発表会・愛日教研・知能検査
11月	交通安全・運動能力テスト・読書週間行事・育成会教養講座・学校訪問・第10回全国バズ学習研究集会
12月	避難訓練・球技大会・期末テスト・個人懇談会・就職相談・大掃除 終業式
1月	始業式・交通安全・大掃除・実力テスト・進学相談
2月	期末テスト(3年)学級懇談会
3月	期末テスト(1・2年)交通安全・若鳩発行・予餞会・卒業式・修了式

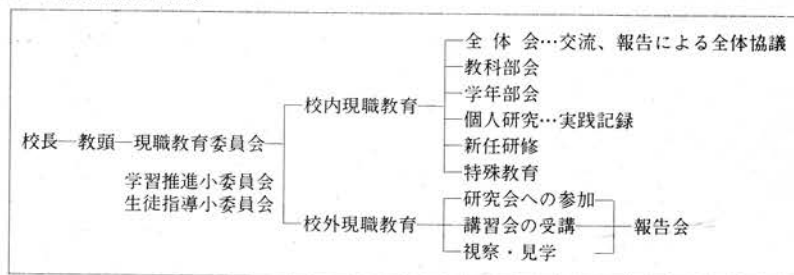
7 現 職 教 育

(1) バズ学習の実践的研究の歩み

年度	研究主題	発表論文・資料
41	学習形態の研究 ○「小集団による学習(バズ学習)」の理論的研究と、教師集団の共通理解	一小集団学習の活用— 市教委委嘱研究 (11月発表、於本校)
42	小集団(バズ)による学習指導の研究 ○短学活を焦点として、バズの方法や技術の定着 ○「学力と人間関係」「個人の学習過程と集団相互作用の過程」などの基本的理論の確認	一小集団による学習の研究— 市教委研究指定 (11月発表、於本校)

43	小集団（バズ）による学習指導の研究 ○教科指導への積極的なとりいれ ・授業研究を通して一授業の流れに課題、個人思考と集団思考の連結授業と家庭学習とのつながりなど	一小集団による学習一 市教委研究指定 （12月発表、於本校）
44	小集団（バズ）による学習指導の研究 ○指導資料の作成 ・活動のルール、班日記の生かし方 ○授業の基本構造をふまえた教材の研究と相互作用の研究 ・教材の構造化 ・教材構造と授業構造の交点 ・指導案形式の検討	一体制づくりの中で一 第1回バズ学習研究会 （8月発表、於徳島市） 指導資料「小集団による学習指導のてびき」 同上別冊「各教科学習指導案例集」の作成
45	授業構造の確立 ○「小集団による学習一指導のてびき」 の実践と検討 ・学習集団としての学級に一話し合 いの組織化 ○学習内容と学習方法の統合一学習過 程の吟味	一授業構造におけるバズの組織化一 第2回バズ学習研究会 （12月発表、於本校）
46	授業構造におけるバズの組織化 ○認知と態度の同時達成のために ・学習指導案の検討と実践、検証 ・学習活動にとりくむ望ましい態度 ○組織化された授業の創造 ・生き生きとした話し合いの場の設 定 ・教材の精選一課題の創造	一態度的目標を授業の中でどのように追求 してきたか一 第3回バズ学習研究会 （11月発表、於姫路市） 指導資料「バズ学習のてびき」 （生徒用）の作成
47	自己実現をめざしてのバズ学習の発展 ○「バズ学習のてびき」指導実践と記 録、評価 ・集団性をもった組織としての学級 への成長 ・授業へのぞむ態度の確立 ・生活の中へのバズ活動の応用 ○教師の授業実践記録の蓄積	一バズ学習のてびきの作成と実践一 第4回バズ学習研究会 （8月発表、於広島県） 一バズ学習の問題点とその克服について一 第5回バズ学習研究会 （11月発表、於長崎市）
48	バズ学習の基礎がためと、授業過程の 実践的研究 ○バズ学習体制づくりのプログラムの 創造一「バズ学習のてびき」を活用 して ○バズ学習の指導過程の分析表（塩田 教授提案）の実践的検討	一学習課題の調べ方、考え方の指導一 「授業研究」No.115（明治図書）に掲載 一バズ学習指導の構えなおし一 第6回バズ学習研究会 （10月発表、於滋賀県）
49	すべての子どもを参加させ理解させる 創造的授業研究 ○一時間の授業の流れと課題 ○授業実践の中で、学習意欲を高める たための課題の追求 ○授業における即時評価の試み	一すべての子どもを参加させ理解させる創 造的授業過程の研究一 第7回、8回バズ学習研究会（10月、11 月発表、於新潟県、兵庫県）
50	ひとりひとりをのばす指導の実践 ○課題と評価の意味 ○自己調整機能である自己評価 ○即時評価の試み	一ひとりひとりを生かす教育実践・課題へ のとりくみと評価について一

(2) 研究体制の組織



第10回全国バズ学習研究集会

ひとりひとりを生かす学習指導をめざして

姫路市立安室小学校 黒岩博文

1. はじめに

本校は、数年来、児童ひとりひとりを学習の場で大切にしながら、思考力を高め、創造性を培うこと、すなわち、学習への参加度を高め、主体的な態度を育成し、学習の効率化をはかるための方法をさぐってきた。

そのためには、

(1) 思考をうながす課題を設定すること

- 児童に、興味、関心、目的意識を持たせるような課題の設定が、主体的に学習させる原動力である。

(2) 主体的に学びとらせる学習過程を組むこと。

- 学習過程を発見的に組み、児童の主体的な活動を通して、概念をつかませる。

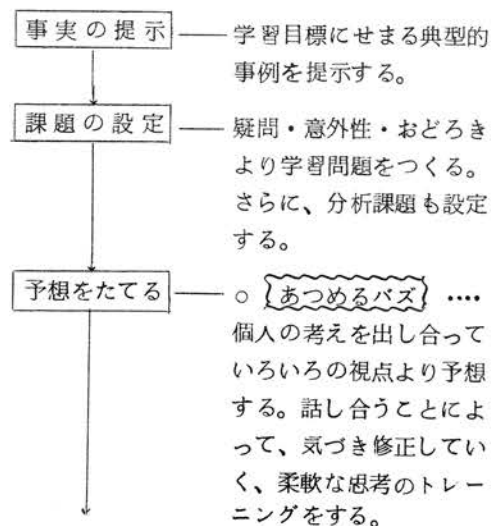
(3) ひとりひとりを大切に学習集団をめざすこと。

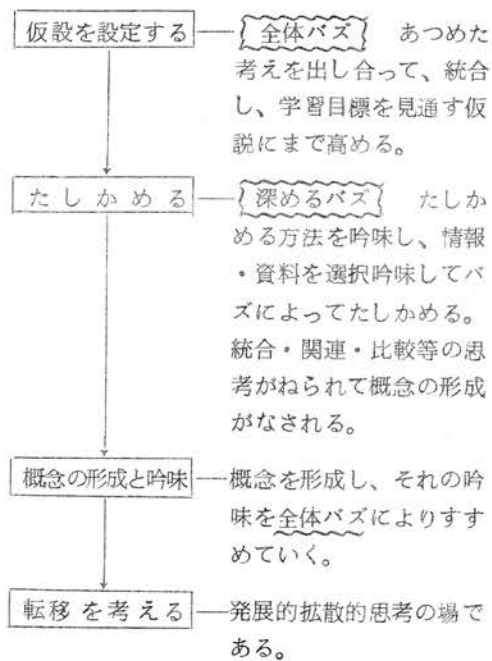
- ① 学習過程の中に、小集団(4~6名)学習の目的を明確にして位置づけるとともに、過程全体をとおして児童相互のコミュニケーションを大切にしなければならない。
- ② また、機械的に編成された学級集団を、

人間尊重の基盤にたった学習集団に育てていくこと、すなわち、助け合い、はげまし合い、補い合い、みがき合う集団——支持的風土のある学習集団——の育成していかねばならぬ。 etc.....

と考へ、学習過程と学習形態の原型を次のように定めて実践してきた。

(4) 学習過程と学習形態の原型





しかし、児童ひとりひとりを毎日の学習の場で本当に生かしながら、思考力を高め、創造性を培っていくためには、課題、学習過程、学習形態、支持的風土のある学級集団の育成といったことだけでよいのか、児童ひとりひとりの学習に対するレディネスをもっとほりさげて求明することが必要ではないかとの反省の上にとって、研究立題を設定し、国語、社会、算数、理科、音楽の5教科部で研究にとり組んでいる。

2. 本年度の具体的なとりくみ

“学習の主体が児童であることを再確認し、ひとりひとりの児童を主体的に学習させる。”

(1) 児童ひとりひとりの実態把握

⑦ 学習目標達成のための必要最少限のレディネスの保障につとめる。

- ひとりひとりの児童が、少なくとも学習目標達成のための必要最少限のレディネスを育し、学習課題について、何らかの思考活動を行ない、それが、現実の学習

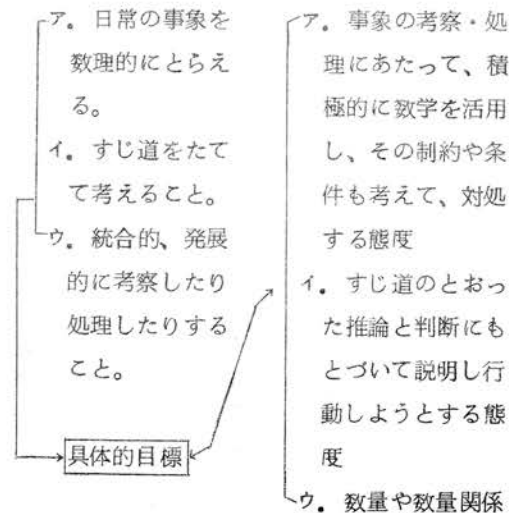
活動の中で生かされることが大切である。そのことが学習権の保障であり、主体的な学習参加であると考え。したがって、学習内容も児童のレディネス保障を根底において計画されたものでなければならない。

① 環境及び意識の把握につとめる。

- ひとりひとりの児童を学習の中で生かすためには、児童の家庭環境及び、意識（願い）等の状態を充分把握し、学習を組みたてなければならない。
- (2) 昨年度までの教育実践を、上記の(1)に積みあげることににより、毎日の学習の場でひとりひとりを生かすことが可能になり、のぞましい学習集団へと成長していくものであると考える。

3. 算数科のとりくみ

(1) 算数科の学力



- ① 基礎的な概念
や原理の理解に
重点をおくこと
が数学的な考え
の育成上重要
- ② 知識、技能を
形式的に練習す
るだけでなく、
それらを的確に
能率よく用いる
ための判断力を
強調

③ 用語、記号が簡潔、明確な表現や思考のため
の道具として数学的な考え方を支える基盤
である。

④ 数学的な考え方にたった問題の解決の姿を
過程的に示す。



数の概念・計算の原理・法則・図形概念・
測定の原理などいいかえれば、もとになって
いる考え方を理解することによって、それを
発展し、子どもたち自らで算数・数学をつく
りあげていく力を身につけさせることである。

すなわち、すじ道をたてて考える能力の育成で
あり、もっと広い立場での数学的な考えの育成
である。

② ひとりひとりを学習の中で生かし、のぞま
しい学習集団を形成するために

算数科は、特に系統性の強い教科であるので、
その単元、時間の学習目標に到達するための最
少限必要な既習の知識、理解、技能をひとりひ
とりの児童がレディネスとして身につけていな
ければならない。

例えば、

の表現、または、
思考に関して、よ
り簡潔、明確であ
り、統合がはから
れたものに価値を
認め、それをめざ
して工夫する態度

啓林 5年下 P46 17. 分数の計算

(異分母分数の加減)

基本問題 $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$, $\frac{1}{2} - \frac{1}{4}$

異分母分数の加減は、単位の異なる数の加減で
あることが児童たちにとって新しい課題である。
それも、問題とする数が分数であるというだけで
あり、既習事項が理解されておれば、その方法を見
い出すのは、あんがい容易なのではなからうかと
考える。

しかし、実際に指導してみると、大きな抵抗を
感ずるのが常である。その要因は、無数にあるだ
ろうが最も大きなものとして考えられるのは、児
童の実態把握に誤りがあったことではなからうか。

例えば、上の基本型を指導するに際して、具体
的な連続量を素材として、導入をはかるとするな
らば、その素材自身はまったく新しいものではな
く、既習の十分理解されたものであるはずであり、

① 既習の理解された素材を組み合わせることによ
り児童にとっては新しい解決しなければならない
学習課題となり得るようにしむけると、同時に、
その課題を解決するための②基本的な考え方や、
③技能も、児童の身につけていることが必要であ
る。

レディネステスト [1]

つぎの□の中に、ちょうどよい数を入れなさい。

- ① $1m$ のリボンを4等分した 1つぶんの長さ
は□ m です。
- ② $\frac{3}{4}m$ は、 $\frac{1}{4}m$ を□つあわせた長さです。
- ③ $\frac{1}{4}m$ の 5倍は□ m です。
- ④ $\frac{2}{3}l$ は □ l の 2倍です。

[2]

① つぎの計算をしなさい。

ア. $2l - 3dl$ イ. $1m - 80cm$

- ② つぎの数は、このままで大きさがくらべられるでしょうか。くらべられないものに×をつけなさい。また、くらべられるものには不等号をつけなさい。

ア. (3kg, 40g) イ. ($\frac{7}{8}$, $\frac{5}{8}$)

ウ. ($\frac{1}{2}$, $\frac{1}{3}$)

[3]

- ① つぎの分数を通分しなさい。

ア. ($\frac{1}{2}$, $\frac{1}{4}$) イ. ($\frac{2}{3}$, $\frac{3}{5}$)

ウ. ($\frac{5}{6}$, $\frac{3}{8}$)

- ② つぎの計算をしなさい。

ア. $\frac{1}{4} + \frac{3}{4}$ イ. $\frac{3}{7} + \frac{5}{7}$ ウ. $\frac{3}{8} + \frac{1}{8}$

エ. $\frac{4}{5} - \frac{3}{5}$ オ. $\frac{13}{15} - \frac{8}{15}$ カ. $1 - \frac{1}{6}$

- [1] 既習の理解されていなければならない素材とは -

$\frac{1}{2} dl$, $\frac{1}{3} dl$, $\frac{2}{3} dl$
--

第3学年で、「端数部分の量の大きさのあらわし方」で既習。

ここでは、「量の大きさのあらわす方法」の基本的な考え方である。何等分かして単位を決め、『その単位量のいくつ分かで量の大きさを表わす』ということが生かされていなければならない。

この基本的な考え方は、1年生の「かさ」「ながさ」の単元で培われ、それ以後の量の指導で大切に育て上げられてきたものである。

- [2] ここで用いられる基本的な考え方

「同一単位でないと加減はできない。」換言するならば、同じ単位で表わされていない量を加減しても、その結果の量は表すことができない。

この考え方は、これ以前の 整数や小数の指導に於ても、また、本学年に於ては多少観点は異なるが、異分母分数の大小比較等でも培われた大切な考え方である。

- [3] 課題解決のための技能

- ① 同一単位になおす技能(通分)

ここでは、分数の性質、即ち「分数の分母・分子に、0でない同じ数をかけても、同じ数でわってもその値は変わらない」の理解をその根底においた技能が必要である。

- ② 同分母分数の加減

「分数の第1義」にもとづく分数の合成・分解を理解し、同分母どうしの加減では、「分母はそのまま、同分母どうしの加減では、「分母はそのまま、分子だけを加減する。」という形式的な理解にまで高めておきたい。

以上の3点が身につけていけば基本問題は児童たちの手で解決していけるものであり、教師はそのための場面設定をしてやればよいことになる。

したがって、異分母分数の加減導入に際しては、現在の児童の実態がどうであるかを知ることが大切であり、どの段階のどの部分につまづきがあるかを分析し、児童の欠陥をおきなう手だてが必要である。ただ単に、形式のみをおしつけては児童は理解できないだろうし、以後も同じことのくりかえしに終わるのではないかと危惧する。

(3) 児童のレディネスを高めるてだて

☆ 低学年……毎日の学習時におちこぼれな
いよう到達度を座席表カルテを用いて、ひ
とりひとりを点検し、復習バズを放課後に
位置づけ、教師もかかわりあいながら、で
きるだけその日のうちに理解させるように
努める。

☆ 中・高学年……学期始め、前学年、前学
期の基礎技能（乗法九九、四則計算）の調
査をし、継続的につまづきの治療を行なう
とともに、単元導入1週間程度前に準備テ
ストとして、知識、理解、技能のレディネ
ス調査を行ない課外の復習バズ等で教師も
かかわり合いながら理解させるよう努める。

☆ つまづきの治療に際しては、ひとりひと
りの生育暦、学習暦、家庭環境等を考慮し
て、ひとりひとりにあった指導をするよう
努める。

☆ おちこぼしをつくらないために、算数科
の場合は、原則として授業時間の最後に小
テストを位置づけ、個々のつまづきの点検
と治療に努める。

(4) 教材研究の一視点

以上のことから、教師の教材研究も、学習
目標に到達するためには、どんな知識、理解、
技能が最低必要なのかも分析し、事前に児童
の実態を調査し、つまづきの指導をしておか
ねばならない。

また、つまづきの治療の過程で、ひとりひ
とりの児童を学習の中で生かすにはどう学習
を展開していけばよいかも明らかになるもの
である。

(5) 実践例（6年生A児の事例）

① A児の4月当初の実態

ア。生活場面では、明るい性格で級友にも
好かれ、スポーツでは指導的立場をとる。
しかし、学習場面では、それらの良い関
係が生かされず、班での話し合いにも十
分参加できず、学習全般に意欲を示さな
かった。

イ。家庭でも、両親ともA児は勉強はでき
ないものと思いこんで、学習に対してあ
まり注意を注いでいなかった。

ウ。学期初めの基礎技能調査の結果は、整
数の加減の繰り上がり、くり下がりが不
確実、小数も十進数としての位取りが不
充分であり、分数も、異分母の加減、ま
た、乗除も計算できない状態であった。

② A児に対する手だて

㊦ まず、基礎技能の指導を教師とマン・
ツウ・マンで、2位数±2位数まで、フ
ィードバックして指導し、整数の加減乗
除がある程度確実にできるようになった
時点で、A児に好感を持ち、学力も優位
性のあるN児、K児、H児と班を組ませ、
はげまし合いながら毎日の学習や復習バ
ズにとりくむようにしむけた。

㊧ 両親に対しては、異分母分数の加減が
確実にできるようになった時に4月から
のA児の学習に対する成長のようすを事
実を提示することによって、やればでき
ることを認識してもらい、両親の協力、
（Aに対する温いはげまし）を依頼した。

以上のような手だてを行なった結果、両親も
A児の学習のようすに関心を持ちだしノート、
宿題点も点検するなど、A児をはげます姿勢が
みられるようになった。

また、班を編成した1～2週間は、もっぱら
受動的であったA児も、班のみんなが認めてく
れる、やれば自分なりにできるという自信から

A児の方からも班の児童に質問するようになり学習に対して意欲がはじめ、班の意見を代表して全体の討議の場に出すことも徐々にできるようになった。

また、基礎技能の継続的な指導を放課後の復習バズで、教師もかかわりあいながら班の児童たちの手でおこなってきた結果、A児だけでなく、クラスの全員が一応、整数、小数、分数の四則計算ができるようになった。

③ 学習指導例

[单元 なかま調べ] (啓林 6年)

[1] 目標……略

[2] 最低必要と考えられる知識、理解、技能

㉞ 場面をとらえ、条件が整理できる。

(イ) 要素の関係を図で表記する。

(ウ) …… 以下略

⑧ レディネス調査の結果とその手だて

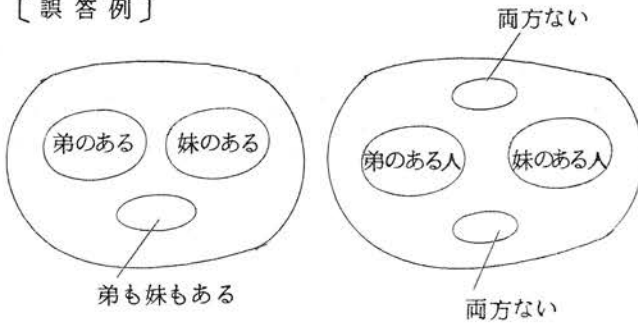
○あるクラスで弟や妹のある人を調べたら、弟のある人は26人、ない人は14人で、妹のある人は23人、ない人は11人でした。それらのうち弟も妹もある人は12人でした。

㉞ 条件の整理 → 全員できた。

㉞ クラス全体を弟や妹のあるないで分け、それぞれの関係を図で表わしなさい。

☆ A児を含め9名のものが誤答(無答はA児を含む5名)

[誤答例]



クラス全体			
弟のある人	妹のある人	弟と妹のある人	弟も妹もない人
26人	23人	12人	25人

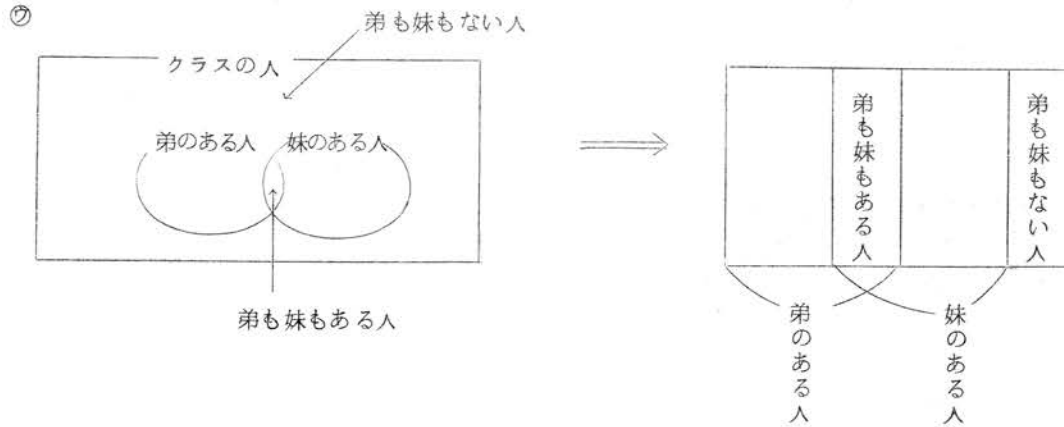
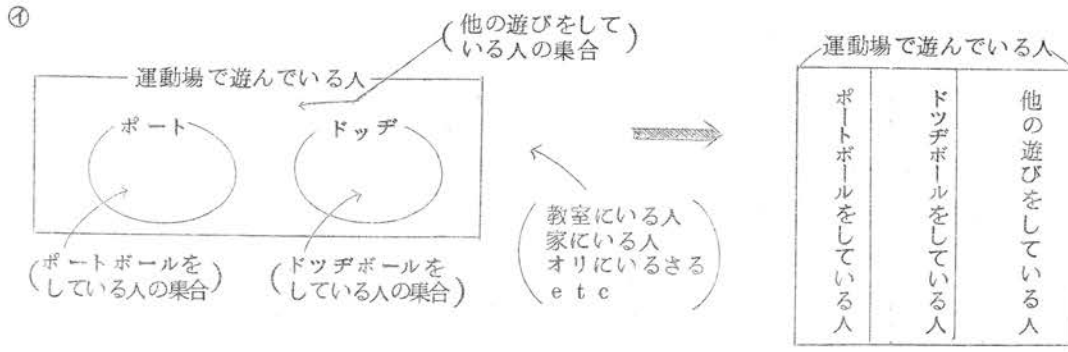
弟がある	弟がない	妹がある	妹がない
26人	14人	23人	11人

㉞ 以下略

[事前指導]

関係を図で表わす方法の指導 → オイラー図(ベン図) 面積図の理解

㉞ 閉曲線で囲まれた内と外
○内が子どもの集合(A児、S児の位置を記入)
○外はその他のもの(おとな、ライオン、家、etc)



㊤ 以下略

[4] 学習指導の実際

本時は、集合を条件によって分類し、各集合の要素の数を求めさせるものであるが、事前指導の結果、A児の含む全員が、提示されている条件が整理でき、それぞれの関係を図に表わすことができると思われるので、場面設定のしやすい問題を提示し、要素の関係を図に表わさせることから各要素の数を求めさせるよう指導した。

[学習の流れ]

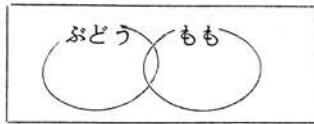
1) 問題提示

ある村で、ももやぶどうを作っている家を調べたら、ももについては、作っている家70けん、作っていない家30けん、ぶどうについては、作っている家60けん、作っていない家40けん、ももとぶどうの両方を作っている家は40けんでした。村全体を、ももやぶどうを作っているかどうかで分けて、その数を調べましょう。

2) 条件の整理 — 略

3) 要素の関係を図に表わす。

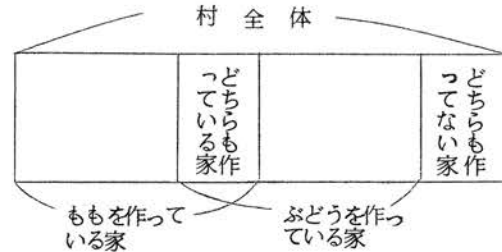
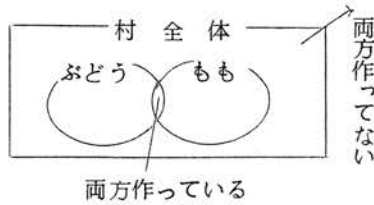
A児の関係表記



事前指導の結果、A児も図表示ができたが不確実であった。

4) 班でいろいろな図を出し合う。

(A児の班で出された図)



A児は、自分の図を説明し、班の話し合いの結果村全体を記入していないことに気づくとともに、班で出された図についても理解できたようだ。

5) なかま分けの観点を考える。—— 略

6) 要素の数を求めるにはどの図がよいか考える。

A児……最初は、自分の書いたオイラー図に固着していたが、班、全体バズを通して、要素の数を問題にする時は、面積図の方が都合がよいことを理解した。

7) 要素の数を計算する。—— 略

8) 類似の問題を考える。

40名中A児を含め37名の児童が図に表わし問題を解くことができたが、3名の児童は、図も不確実であり、理解できないようであったので、その日の復習バズで理解させるようつとめ、次時へつないだ。

(6) おわりに

以上のように、本時の学習では、A児はA児なりに、主体的に学習に参加し、班での話し合いも積極的にできるようになってきた。

すなわち、「ひとりひとりの算数の学力を日々の学習で高めていく」ためには、ひとりひとりの実態を、家庭、学校生活、既習事項等にメスを入れ追求し、つまづきの原因をとり除くよう配慮することによって、児童の学習に対するレディネスを高め、課題に対して解決のための何らかの手がかりや意欲有している状態を造ってやるのが大切であると考え。

また、学習過程は、発見的に組み、児童に興味、関心、目的意識を高めさせるような課題を設定し、主体的な活動をとおして概念・原理・法則をつかませるようにしむけなければならない。

その上、「ひとりひとりを学習の中で生かそう」と考えるならば、全員が学習に参加できるような学習形態でなければならない。

そのためには、学習過程の中に小集団の目的を明確にした上で位置づけ、過程全体をとおして、児童相互のコミュニケーションを大切にするとともに、児童相互が認め合い、はげまし合い、点検し補い合うことによって、全員がわかる授業の創造をめざさなければならないと考える。

第10回 全国バス学習研究集会

よりよい学習集団の構成や、学習課題のあり方と評価。

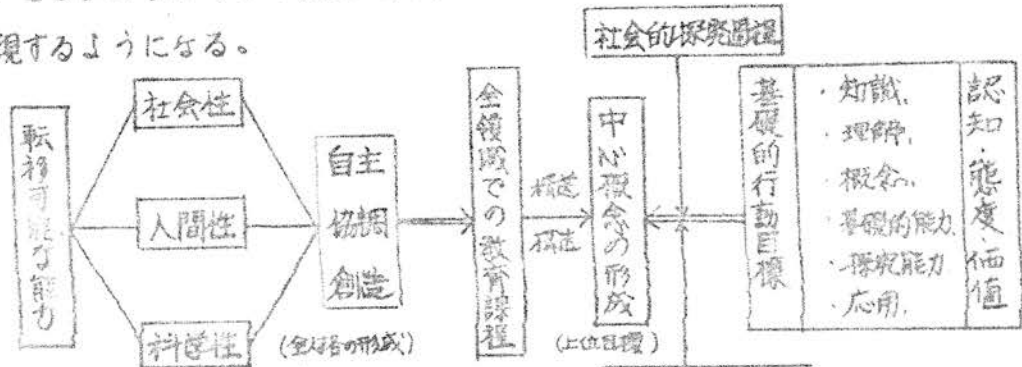
— 社会科指導 —

姫路市立津田小學校

井上大和

1. はじめに

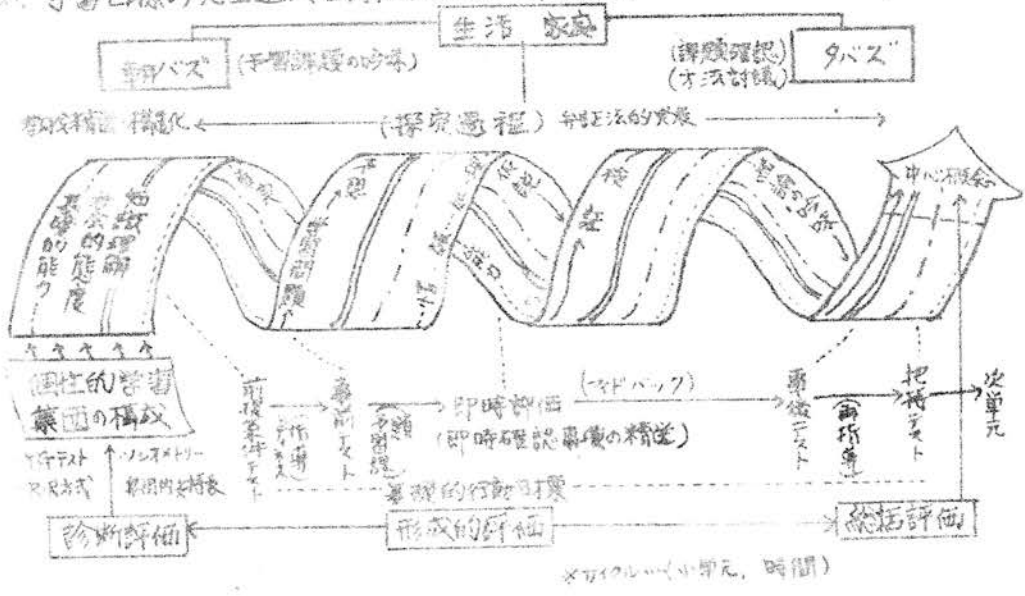
(1) 望ましい学力やその具体的視長についての構造を明示すると以下の図に表現できるようになる。



* 基礎的能力…観察力、資料活用力、思考力、判断力 バス集団による

* 探究能力…情報処理能力

(2) 学習目標の完全達成と評価。(その全体計画)



2. 学習集団の構成と育成に関する評価

(1) YGテスト (A見) **平凡型** 安定積極型, 安定無能力型, 不安定消極不適応型, 不安定積極非定型

R・R方式調査 (相対主義的関係座標方式 (R.R.R.M.) による思考タイプの型) 例 (A見)

送状股					α, β, γ					DIAK・MS				
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2	4	1	2	2						α	β	K	α	K
3	7	7	4	4			α		γ	0	3	7	6	7

理想型, **混成型** 散発型, 立集合型, 集合型, 拮抗型

思考テスト (A見)

連語テスト	27	経緯語再生テスト	5	直観連想 拡散 創造 集中統合 関連集合 比較類推	上	中	下
同意異義語テスト	9	語群命名テスト	5		上	中	下
用途テスト	4	言語的抽象テスト	3		上	中	下
					上	中	下

ソシオメトリー

適性判断傾向 (A見)

欲求	動機
規範	判断

IQ 73

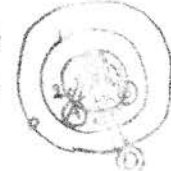
学習行動の総括評価 **上** 中 下

1型 関係的総合的思考 2型 限定的関係的思考 **3型** 固執的概念的思考 (A見)
 4型 表面的断片的思考 5型 依存の困惑的思考

上記診断テスト等の他、学習及び行動の観察、指導の記録等をもとに集団構成を把握する。なお、集団は、相互信頼、相互強化、個性的課題解決目的意識共同体、ストラテジーをもった、たかめあえる、個性的な、科学的能力のある集団であることが望ましい。

(2) 態度、目的活動に関する自己評価、相互評価

よく話し →



1. 学習の中心になりまの役 (2人 (+3))

2. 人の意見をよくきいてい (1人 (-1))

3. 自分勝手な行動を (1人 (-1))

3. 学習課題と評価.

1.の(2)で掲げた全体構想に従い、学習過程での評価について具体的に、3年生(社会科)の単元「安全でけんこうな暮らし」の小単元「火事をふせぐために」の学習を例に考察を進める。

(1) 前条件テスト、(2年の既習学習)

観 点	理解していないもの	観 点	理解していないもの
消防車の種類とは知らず。	11%	訓練について。	6%
火事場へ早くいくための手段。	14%	火事の原因について。	11%
消火のための施設は知らず。	20%	火事の時の協力。	3%

・レディネス指導……(知識 理解 ・基礎的能力(資料活用)(学習観察)(条件思考))

(2) 事前テスト(本単元の観点) 成就率

・早期発見のための施設	・早期消火の組織やしきみ
・早期消火の為の施設	・火災発生と他組織との協力
・防災の日常活動	・防災の都市計画

(1)(2)の個人診断

変数	(1)	(2)
A	0	0
B	0	X

(3) 課題の設定と学習計画、(7時間)

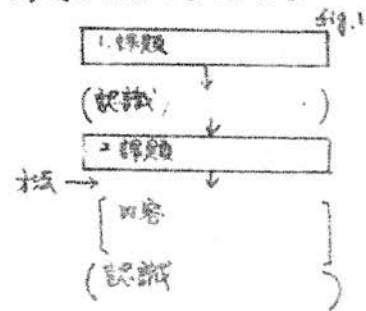
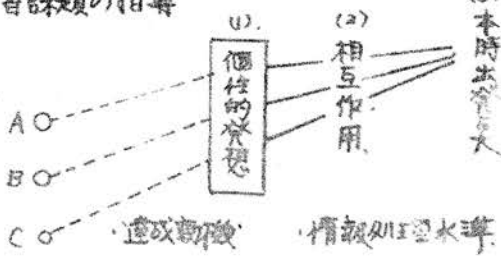
・上位行動目標 (中心概念)	・中では、火災から市民の生命、財産を守るため、消防署を中心に、早期発見、早期消火、防災のしくみを作り、組織的に活動している。
・下位行動目標 (学習サイクル毎に課題を設定する)	<ul style="list-style-type: none"> ・火災件数の変化、被害額の変化から理由を考える。 ・早期発見、早期消火の組織、施設を調べる。 ・早期消火へ他団体との協力を計画図などで読みとる。 ・消防活動と防災活動の仕事のようすと条件づける。 ・防災都市計画やその進行に関心を深める。
<p>構想</p>	<p>中心課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火事はふせているが、そんがいがい額が入っているのは、どうしてだろう。

(4) 学習サイクル内の各ステップは4段階8分節の探究学習方式による。

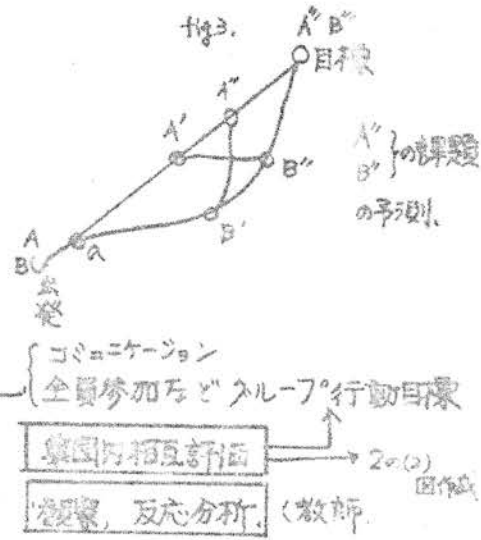
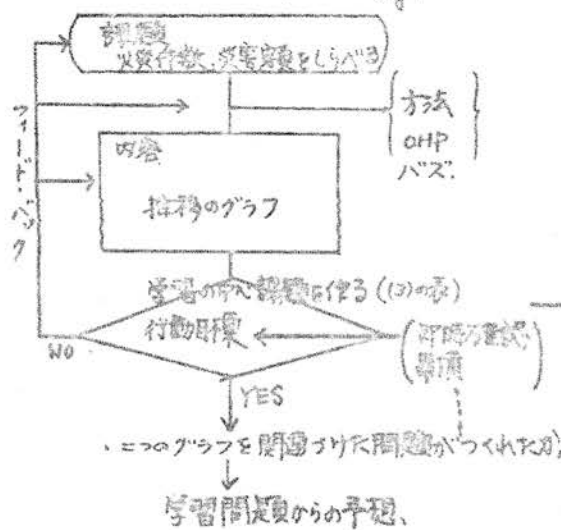
(5) 指導段階におけるフィード・バック機能

(1) 予習課題の指導

させる。
予習課題の作業を促す



(2) ステップでの指導



(6) 事後テスト

・サイクルごとに下位行動目標の達成状態についてその成果を測定する。

(7) 把握テスト

・学習の定着率を行動目標について測定する。

4. まとめ

学習課題と評価の研究は、教育課程、教授-学習過程の本質を十分おさるに上で取り組むことが大切である。計画の甘さは評価の修正可能にするよりも大きいように思われる

第 6 分科会

**第10回 全国バス学習研究集会
学習課題と評価**

広島県豊田郡豊浜町立豊浜中学校

橋 浜 正 人

1. はじめに

本校がバズ学習に取り組んだのは、昭和42年、今から9年前になります。復習バズから始め、現在では、学校生活の全領域にバズを取り入れるに至っております。

授業時間にバズ学習を取り入れたのは昭和46年からでした。その当時から、学習課題と評価の重要性を認識していたのですが特に評価の面での研究実践がとり残されてきたことを深く反省しております。当時取り組んだ学習課題の構造化―課題一覧表―は、どうにか定着してきたようですが、評価については、これからの段階です。

このように十分な研究もおこなっていないのですが、課題一覧表とそれに関連した単元・教材の評価を中心に述べてみたいと思いますので、先生方のご批判、ご助言をいただきたいと思っております。

2 学 習 課 題

(1) 課題について

各單元にはそれぞれのもつ課題がある。その課題を自らの力でとらえ、解決の方法を探り、自分なりの考えを確立してゆくのが理想であるがなかなかそうはいかない。

そのためには生徒1人1人が課題に対して問題意識をもって継続して探求していきける課題設定が必要である。この課題設定に関して教師は常に課題の精選に力を注がなければ当然授業の中でのバズに発展が見られない。

1時間の授業の中で学習課題をはっきり持たせ、どう組み立てていくかが重要な点である。「何を」「どこで」「どのように」組み立て、集団の中でのかかわりをふまえてたてなくてはならない。課題は準備、中心、確認の3段階においている。課題を作成するにあたっては、次のことに留意する。

- ・目標を明確につかむ。
- ・教材の系統をつかむ。
- ・とりあげる事象、事象をしぼる。
- ・生徒が主体的に取り組むことができるようなものであること。
- ・目標が高すぎないかどうか吟味してみる必要がある。

中心課題に迫るために準備課題を設定し、中心課題を解決した後、知識の定着をはかり、次時への発展を要素とする確認課題を設定する。

(2) 課題一覧表について

ア. 本校でのとらえ方

教材を構造化するためには、まず教材を分析し、その中より学習課題を明確にしていくことが手がけなければならない。そして、1つ1つの課題がどのような関連を持っているかを把握し、構造的に教材を再編成する。

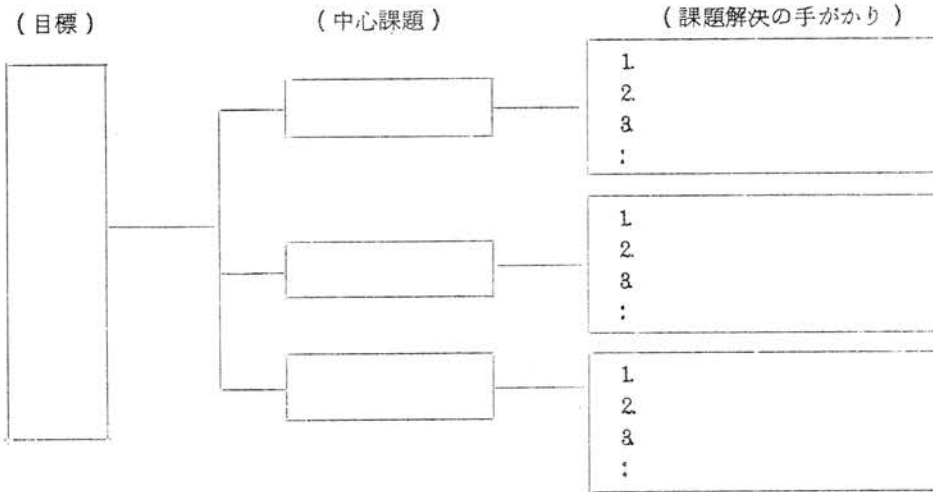
このことは教材の精選をはかることにもなるし、また、生徒にこの構造化したものを配布することにより、生徒は「この教材で何を勉強するか」という目標をつかみ、そのためには「どんな課題を解いたらいいのか」「次の時間は何を学習するのか」を理解することができるため、本時の目標・予習課題が明確になり、家庭学習の習慣化にもつながってくる。すなわち、教師だけではなく生徒にも教材を構造的に理解させることをねらっている。

本校ではこのようなある単元（または教材）の中心課題的なものを精選して一覧表にした「課題一覧表」を構造化として受けとめている。

最近では、時々課題一覧表の配布を忘れていたり、遅れたりすると、「先生、課題一覧表は？」と言ってくる生徒が多くなってきた。ということは、生徒も課題一覧表をかなり活用していると考えられる。

イ. 課題一覧表のしくみ

いろいろな形式が考えられるが、本校では一応次のような形式で実践している。もちろん、教科の特質があるので、教科により多少の違いはあるし、課題を発問形式にして利用することもある教科では試みている。



ウ. 課題一覧表の作り方

まず単元について行なうか、小単元にするかは指導時数と内容のまとまりを中心に決定する。つまり、20時間とか30時間かけて学習する単元を一覧表にすると、内容が多すぎて構造がつかみにくくなる。できるだけ10時間以内で扱える教材のひとまとまり（小単元）について一覧表を作成することが望ましい。しかし、20時間以上もかけて扱う単元の構造化も必要であり、それは別のプリントを用意して説明しなくてはならない。

さて、単元（または小単元）が決まったら、その目標を設定する。目標は生徒に理解できるようなわかりやすい言葉で表現する。その目標をどのような課題の設定によって達成させていくかということで中心課題を目標の右側に羅列表記する。これは目標から見れば分節課題であるけれども、一時限の授業の中心となる課題になるので中心課題という表現を用いた。そして、その中心課題を解決していく手がかりをその右側に設けた。これは、教師の側から考えるとその課題解決の援助としての中心発問と考えている。

エ. 課題一覧表を生徒にどのように与えるか。

新しい単元に入る前に課題一覧表を作成し、単元に入る最初の時間に生徒に配布し、説明をする。説明の前に一覧表に基づいた論述式のテストを行なうと、生徒はほとんどできないであろうが、その時「このテストが完全にできるようにこれから勉強しよう」と言ってやれば、一覧表の効果も倍増するであろう。

配布後は中心課題の一つ一つを解決しながら学習方法を身につけていくわけである。毎時

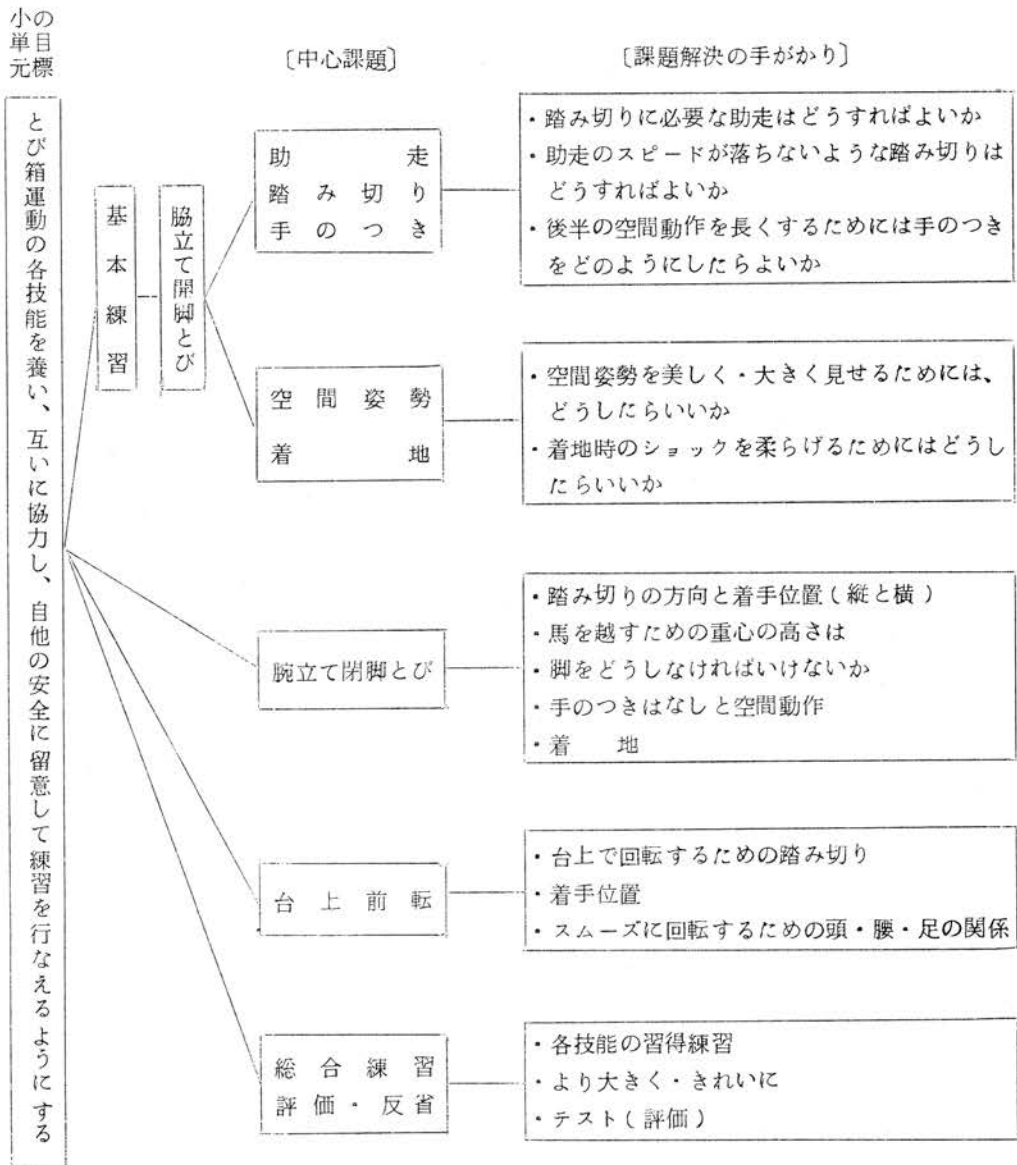
間一覧表を使うわけであるから、ノートにはりつけたり、ファイルにとじさせたりして持参させることが大切である。

オ. 課題一覧表の実例

1年 体育科

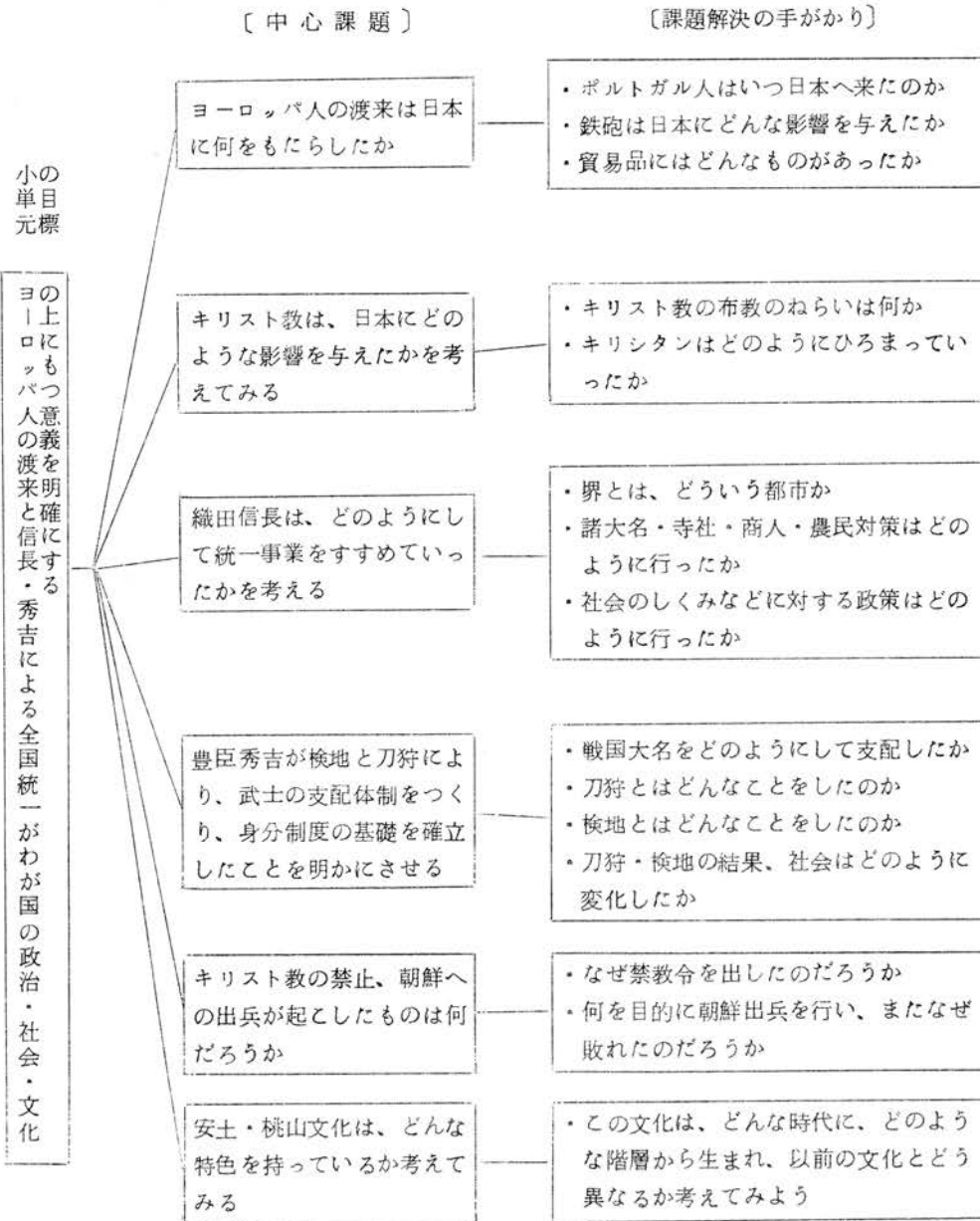
課題一覧表

単元「器械運動（とび箱運動）」



2年 社会科・歴史 課題一覧表

単元 「封建社会の確立」



カ. 課題一覧表についてのアンケート

質問	答え	%
1. 課題一覧表があった方がいいですか。	はい	79.4
	どちらともいえない	17.6
	ない方がいい	3.0
2. あなたはどんなところで利用していますか。	授業の最初に学習内容や目標を知る。	41.9
	授業の途中で課題解決の手がかりを参考にする。	25.8
	家庭学習で	74.1
	単元の最初に単元で学習内容を知る。	12.9
	利用しない。	8.8
3. いつも（毎時間）学校へ持ってきていますか。	いつも持ってきている	58.8
	ときどき持ってきている。	26.4
	持ってこないで家へ置いている。	5.9
	途中でなくす。	8.8
4. 配布されたらどこにおいていますか。	ノートにはりつける。	0
	ファイルにとじる。	2.9
	教科書にはさめておく。	70.1
	ノートにはさめておく。	14.7
	机(学校の)の中においておく。	5.9
	その他	14.7

答えの内容分析

1. 課題一覧表があった方がいいですか。

答 え	内 容 分 析	%
は い	単元・教材でどんな勉強をするかよくわかる。	62.9
	時間、1時間の目標や勉強内容がわかる。	62.9
	予習や復習に便利である。	40.7
どちらとも いえない	あってもみない。(利用しない)	66.7
	どうせ勉強がわからない。	50.0
	すぐなくしてしまう。	33.3
ない方が いい	見るのがめんどうだ。	100.0
	どうせ勉強がわからない。	100.0
	なくしたら先生にしかられる。	100.0

2. あなたはどんな所で利用していますか。

答 え	内 容 分 析	%
家庭学習で	予 習 に	0
	復 習 に	9.5
	宿 題 に	85.7
	テスト勉強に	9.5

キ、アンケートについての考察

単元・教材の最初の時間に課題一覧表を配布し、単元・教材目標と、その単元・教材で学習する課題について10分～20分かけて説明している。同時に、ノートかファイルに閉じておくよう指示してきた。

その後の使用は、各時間の最初に目標・課題の確認として、教師が読んだり、生徒に指名して読ませ、板書した。また、予習の意味で課題解決の手がかりを家庭学習でやってくるように指示し、次の時間欠かさず点検を行なってきた。これは、本校の生徒が家庭学習の習慣化ができておらず、宿題だと言って点検しないと、予習してこないからである。

○アンケートについての考察

全般的に見て、生徒は課題一覧表の必要性を感じ、利用していると言える。しかし、2の「どんな所で利用していますか」という質問に対して、家庭学習が圧倒的に多く、その中でも、「宿題に」が85.7パーセントを占めていて、「予習に」が0パーセントだということは生徒が自主的に利用しようとしているのではなく、教師の徹底した指導により、除々に定着化している段階にあると思われる。このアンケートの対象が1年生だという所にも原因があるだろう。

また、同じ項目の「授業の途中で課題解決の手がかりを参考にする」と「単元で学習する内容を知る」が少ないのを見ると、教師が課題一覧表作成の時に、目標—中心課題—課題解決の手がかり、の関連をもっと具体的にわかりやすくする必要があり、単元・教材の最初に充分説明しておく必要があるようだ。

3・4の項目については、今まで指示しただけで点検しなかったことに起因している。この問題は、課題一覧表をノートに添付させることによって解決できる。

このアンケートから、我々教師が、まだまだ十分に活用してないことを反省し、今後活用範囲を広げ、習慣化していくことによって、生徒の自主的な活用態度を生み出すことが可能だと考える。

3. 評 価

評価は目標がどの程度達成できたかという度合を調べるものであって、評定したり、順序づけたりするものではない。だから、学習課題と密接に結びついていて、決して切り離して考えることはできない。また、点数で評価することは、生徒に優越感や劣等感を植えつけ、しいては、人間関係をこわすことにもなりかねないので避けるべきである。

評価にもいろいろな評価方法がある。まず評価するのが誰かによって分けると、教師が生徒の学習における理解度・態度を評価し、指導の欠陥がどこに現われているかを反省する場合と、生徒自身が、自分はどこをなぜまちがったのか、わからないところはどこかを明確にさせ、自己反省の材料とする、自己評価とになる。むろん、どちらの評価を行なったとしても、ただ単に片方の評価だけに終わることはない。

次に評価範囲により、各授業ごとの評価と、単元・教材にまとめた評価が考えられる。

どんな評価をするにしても、バズ学習が認知と態度を目標に掲げているのだから、この両面の評価をしなくてはならない。我々教師は認知面の評価のみに陥りやすく、態度面の評価は主観によって済ませてしまう傾向にある。生徒は案外教師とは別な感じや意見を持っているかもしれないのに。

(1) 授業時間における評価

特別これといった形式をとって評価しているわけではないが、認知と態度両面の評価を心がけている。

認知面では小テスト形式（ペーパー・質問など）・班内のバズや実技などによって評価している。また、態度面では、主観による評価がほとんどだが、質問形式の評価を試みることもある。

いずれにしても、各時間の評価は必要であるが、形式化して毎時間評価するだけの余裕と時間のないのが現状である。

〈実例①〉 — 確認段階で —

〈課題〉
 ホウ酸と硫酸銅の混合物の溶液からこの2つの結晶を別々にとり出すにはどうしたらよいか。

〈評価〉	課題に対して(認知)	〈問題など〉 ○硫酸銅とホウ酸の溶解度曲線より、ホウ酸と硫酸銅の混合物の溶液を冷やして、ろ過し、ろ紙上に残った沈殿は何か。 ○その時のろ液は、どのような状態になっているか。 ○結晶を一度溶媒にとかし、ふたたび結晶としてとり出すことを何というか。
	態度	〈質問事項〉 ○授業に真剣にとりくんだと思うか。 ○授業の内容は、よくわかったか。

先生が以上のことを口頭で質問し、西洋紙に書かせる。

(体 育)

〈課題〉
 腕立て開脚とびでとにかく全員がとび越せるようになろう。
 (とび越せることを目標)

〈評価〉	課題に対して(認知)	〈問題など〉 1. 開脚とびの運動はどんな要素から成り立っているか (助走、踏み切り、手のつき、空間姿勢、着地) 2. とび越すために必要な要素は? (助走、踏み切り、手のつきの3要素) 3. 3要素の正しいこなし方を考えさせながら練習バズをさせる 4. できる人とできない人との比較 5. 練習
	態度	〈質問事項〉 1. 班で協力できたか 2. 健康・安全に留意できたか 3. ルール、マナーを守って練習できたか。

〈実例②〉 — プリント学習 —

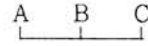
物 化 2 学年 () 組 () 班 氏名 ()

P172 目に見えない粒子の運動

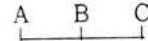
【学習の目標】 顕微鏡下でブラウン運動し発表する。

○水の粒子が運動していることを、ポスターカラーによるブラウン運動から推論し説明できる。

(1) ポスターカラーを水底へ入れるとどうなるか。(自分の予想した通り書こう。)



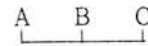
(2) そのとき水の粒子やポスターカラーの粒子はどのような状態にあるだろうか。



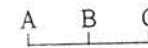
1) 予想

2 (顕微鏡で観察する。

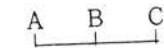
ア) 計画を立てる。どのような順序で顕微鏡を見るとよいか。



イ) 顕微鏡を扱う時にもっとも注意しなければいけないこと。

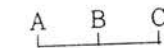


ウ) 観察結果を説明せよ。(どのように見えたか。)



—— バズ ——

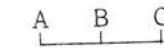
(3) ○動いていた粒は何だろうか。



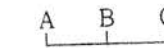
()

○その粒を動かしたものは何だろうか。

(4) ブラウン運動についてまとめよう。



(5) 水の中に墨汁を入れるとどうなるだろうか。



(墨汁の粒はどのように動くか。)

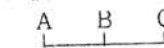
※ 自己評価について

A……うまくいった(できた)

B……ふつう

C……悪かった

バズに積極的であったか



〈実例③〉 — 第3学年代数授業記録より —

- ↓
 前時の復習
 ↓
 T この前のプリントの答えあわせをしたいと思います。12問あったが8番までね。
 S (8人の生徒がさっと前に出て解く。)
 T (机間巡視をしながら問題をやってきているかどうか確認)
 T ざっと答えあわせをしてみましょうね。
 (1問ずついねいに説明を加えていく)
 ↓
 T 6問以上正解の人
 ↓
 S ハーイ。(約8割の生徒挙手)
 T 質問ないですか?
 S 全問正解
 T やってみましょうか。全問正解?
 ↓
 S ハーイ。(約7割の生徒挙手)

- ←
 課題提示
 ←
 T 今までやった問題、1番から8番までみてごらんさい。Xの係数は全部、何だ?
 S 偶数。
 ←
 T うん、偶数なんだね。

↓
 課題
 ↓
 じゃ、本を見ないでこれを考えてみて下さい。

$$X^2 - 5X - 3 = 0$$
 (板書)
 まずノートに自分でどこまでできるかやってみなさい。

- ↓
 個人思考
 ↓
 S (各自でノートにこの問題を解く。)
 ○ $X^2 - 5X = 3$ と移行して考え込む生徒。
 ○ $(X - 2.5)^2 = 3 + 6.25$ と小数で解いていく生徒
 ○ $(X - \frac{5}{2})^2 = 3 + \frac{25}{4}$ と分数で解いていく生徒。
 ↓
 以上三通りの考え方をしている。

- ↓
 T できみたいだから、班で答えをつき合わせ、自分でやったのを説明してみてください。
 ↓
 S (ある班では)
 ↓
 ○ 小数で解くのと分数で解くのとどちらがいいか話し合う。
 ↓
 ○ 自分の解き方を説明したり、他の人のを検討したりしている。
 ↓
 ○ 理解できない生徒に最初から説明している。

- ↓
 T 話し合いをやめて。4班、前に出てやってみてください。
 ↓
 S (班の代表1名が前に出て解く。)

↓
 課題
 解
 決
 の
 方
 法
 説
 明
 ↓
 ↑
 ↓
 練習
 ↓

T それではやっていきますね。
 まず、これ…（-3を指し）。一番最初にやったのは何やったか言うと、数字を移行したんだね。

同じだね。

次に何かを加えて（）の2乗をつくるんだね。

何を加えたらいいかと言うと、前やった問題は16という数字。これ何かと言うとXの係数の半分、Xの係数8の半分の2乗したんよね。

5の半分というたら $\frac{5}{2}$ だな。 $\frac{5}{2}$ の2乗で…… $\frac{25}{4}$ 。

S 2.5よ。

T その話はまたにしようね。

両辺に $\frac{25}{4}$ を加えて計算していくと、 $(X - \frac{5}{2})^2 = \frac{37}{4}$ だったね。

（）の2乗をはずすと√が出てきて、 $X - \frac{5}{2} = \sqrt{\frac{37}{4}}$

$X = \frac{5}{2} \pm \sqrt{\frac{37}{4}}$ となるんです。

他の班はどうですか？

S 小数……………。

T 小数でやった人いるんよね。

ここ $\frac{5}{2}$ を考える時2.5と考えたんよね。

そうすると、この式は $X - 5X + 6.25 = 3 + 6.25$ で計算していくと（黒板に順序よく解いていき）Xのあたいは、 $2.5 \pm \sqrt{9.25}$

ここで比べて見て下さいね。

どちらが簡単でより美しいですか？

よりわかりやすいですか？

S 分数！ 小数！

T 君たちは小数をつかったらわかりやすいと思っているけどね、あとのこと考えたら分数でやった方が楽なんだね。なぜ分数でやった方がいいかと言うと、この次に公式というのが出てきますね。その時に説明しますからね、これに慣れて下さい。

T それではプリントの問題、残り4つあったね。あれをやってみて下さい。やっている人はP56の回数の問題やってみて下さい。

質問ある人は手をあげて聞いて下さい。

（机間巡視しながら質問に答えたり、解らない生徒に説明する。）

S（あちこちで教え合いの音がする。）

〈 プリント配布して自己評価 〉

きょうの学習についての自己評価

評 価 項 目		正 解 (は い)	誤 解 (い い え)
方程式を 解けるか	1	$X^2 - 5X - 3 = 0$	61.1%
	2	$X^2 + 7X - 5 = 0$	55.6
	3	$X(X - 5) = -5$	52.8
次の各項目について 答えなさい	1	計算の方法が理解できましたか。	62.9
	2	これまでに習った方程式がどけるようになりましたか。	57.1
	3	直観的な判断ができ応用できるようになりましたか。	37.1
	4	この教材は興味があっておもしろいですか。	50.0
	5	予習をしてきましたか。(プリント⑨～⑫の問題)	40.0
	6	復習をしてきましたか。(プリント①～⑧の問題)	57.1
	7	忘れ物はなかったですか。	80.0
	8	意欲的に発表し、質問する気になりましたか。	32.3
	9	必要なことはノートに書きましたか。	68.6
	10	自分から進んで話し合いに参加しましたか。	54.3
	11	積極的に手を上げて発言しようと思いましたか。	20.0
	12	意欲的に学習し、先生や友だちの説明をよく聞きましたか。	79.4
	13	真剣な態度で授業にとりくみましたか。	67.6

〈プリント①～⑫の問題〉

- ① $X^2 - 2X - 1 = 0$ ② $X^2 + 2X - 2 = 0$ ③ $X^2 + 4X + 2 = 0$
 ④ $X^2 - 4X - 3 = 0$ ⑤ $X^2 + 6X - 1 = 0$ ⑥ $X^2 - 6X + 3 = 0$
 ⑦ $X^2 - 8X - 9 = 0$ ⑧ $X^2 - 8X + 7 = 0$ ⑨ $X^2 + X - 2 = 0$
 ⑩ $X^2 + X - 2 = 0$ ⑪ $X^2 - 3X = 4$ ⑫ $X^2 - 5X - 2 = 0$

○教師の反省

時間中に行なった問題ができていない生徒への指導のあり方を考えてゆきたい。

Xの係数が奇数であるため分数がでてくるが、そのために解法の手順はすべてあっているが、分数の計算がしっかりできないために誤答となった例が多い。

(2) 単元・教材の自己評価

毎時間の学習をつみ重ね、1つのまとまりとなったものが単元・教材であり、評価する時期としても適当であるため、今まで多く使用してきた。しかし、今までののは、教師の評価であり、生徒自身の評価がなされておらず、また認知面だけの評価、すなわちテストであった。

この点を反省し、次のような観点から自己評価表を考えてみた。

- 学習は認知と態度の両面で成り立つのだから、当然この両面の評価をおこなうべきである。
- 学習の流れ（個人思考→バズ→個人思考）にそったものでなくてはならない。
- フィードバックできるものでなくてはならない。
- 課題一覧表と関連づけるべきである。
- テストは点数で評価すべきではない。
- 本校の生徒はよく「何を勉強するのかわからない」とか「勉強の方法がわからない」と言う。そこで家庭学習内容、すなわちテスト内容を明確に示すことによって家庭学習の習慣性をはかりたい。
- バズは班員の人間関係が大切であるので、他の班員についての評価も組み入れたい。
このような観点到ち形式化していったわけであるが、まだ実践も浅く、十分な検討ができていない。

(イ) 使用 方法

まず、指導計画に組み入れておき、教材の最後の時間、10分から20分程度でテストを実施する。

- ① 課題一覧表・授業にそったテスト問題を作成する。
- ② テストを分析し、家庭学習・テスト内容の項に書き込む。
- ③ フィードバックの矢印をつける。
- ④ テスト前日までに評価用紙を生徒に配布し、テスト結果だけを残し、他は全部記入させておく。
- ⑤ テスト実施（生徒は評価用紙持参）
- ⑥ 終了後、すぐに教師が答えを言い生徒自身でまちがった問題にチェックをつけさす。

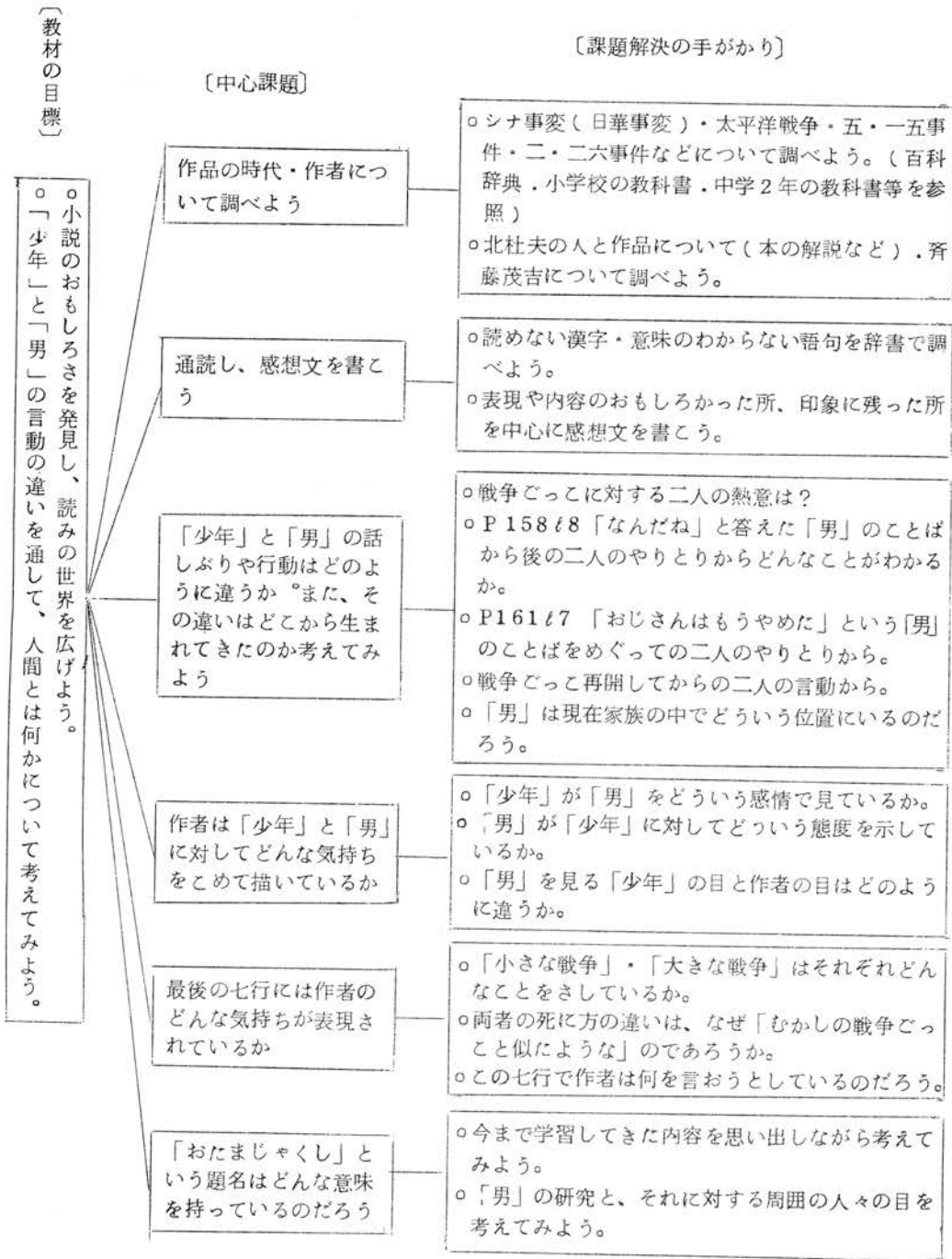
あるいは、教師が問題用紙を集めてチェックする。

- ⑦ 生徒が自分でテスト結果の欄に記入する。
- ⑧ フィードバックの矢印をたどって満足できなかった問題の自己反省をする。
- ⑨ 反省の欄に記入し、もう一度学習しなおす。
- ⑩ 評価用紙を集め、教師が点検し、教師の反省資料とする。と同時に、生徒の指導に利用する。

実践例

国語科 課題一覧表

教材 「おたまじゃくし」 (北杜夫)



【おたまじゃくし】テスト 一年()組()番 氏名()

(一) 新出漢字を中心とした読み

- ①うつ伏せ ②幻想 ③猛烈 ④爆発 ⑤退却 ⑥便々と寄食
⑦沼地 ⑧卑屈 ⑨少尉 ⑩占領する

(二) 書き取り

- ①射撃を()する ②竹の棒を()る ③()な表情 ④少年は()した
⑤敵の() ⑥()が大きい ⑦けっこう()った顔 ⑧()な表情
⑨()れっぽい声 ⑩()に似た声

(三) 意味

- ① P158 ℓ 2 いくらなんでもずうたいが大きすぎた。→
② P159 ℓ 12 あからさまに不安げな声で問い返した。→
③ P165 ℓ 7 栄養失調でよろばい死んだ。→

(四) 次の会話文に「 」をつけなさい。また、それは誰が言ったことばですか。

- その代わりに、なんだよ、と男は卑屈に近い声を出した。採集の時は、ふななんか取ってちゃいけないよ。食用がえるのおたまじゃくしだけを取るんだよ。()が言ったことば。
○ P160 「うむ、決死隊もいかな。」← ()が言ったことば
「どうして？」→ ()が言ったことば
「ソングイが大きすぎる。」→ ()が言ったことば
「だって、初めから死ぬ覚悟だもん。」→ ()が言ったことば

(五) P158 ℓ 5～ℓ 15までで、男と少年の戦争ごっこに対する熱意の違いがよくわかるところをぬき出しなさい。

(男)	(少年)

(六) P165の最後「むかしの戦争ごっこを以たようなものであった。」とあるが両者の死に方とどこが似ていたのですか。

	死に方の違い	むかしの戦争ごっこ
男		
少年		

個人思考			
課題	1.何をやらねばいいかわかりましたか。 2.自分で解決できましたか。	A-B-C	A-B-C
態度	1.はじめに学習にシロ組みましたか。	A-B-C	A-B-C

授業			
授	1.楽しかったですか。 2.満足できましたか。 3.先生の発問・説明はよかったですか。	A-B-C	A-B-C

家庭学習			
学習内容	抽出漢字を中心とした読みの漢字の再取り 語句の意味 会話文(区別と誰が言った言葉か) 課題・配表 ノート 読書中(テーマを思いついたら)	時間	時間

授業			
授業内容	漢字の読み 漢字の書き取り 意味 会話文(区別と誰が言った言葉か) 読解 読書	結果	結果

個人思考			
課題	1.何について話し合えかわかりましたか。 2.個人学習でやったことがあっていましたか。 3.他の人に説明してもらいましたか。	A-B-C	A-B-C
態度	1.積極的に参加しましたか。 2.皆と協力できましたか。 3.楽しく話し合えましたか。	A-B-C	A-B-C

個人思考			
課題	1.何をやらねばいいかわかりましたか。 2.自分で解決できましたか。	A-B-C	A-B-C
態度	1.はじめに学習にシロ組みましたか。	A-B-C	A-B-C

家庭学習			
学習内容	抽出漢字を中心とした読みの漢字の再取り 語句の意味 会話文(区別と誰が言った言葉か) 課題・配表 ノート 読書中(テーマを思いついたら)	時間	時間

授業			
授業内容	漢字の読み 漢字の書き取り 意味 会話文(区別と誰が言った言葉か) 読解 読書	結果	結果

単元・教材の自己評価集計表

単位は百分率です。

1. 個人思考

番号	A	B	C
1	14.7	64.7	20.6
2	11.8	70.6	17.6
態度	17.6	64.7	17.6

2. パズ

番号	A	B	C
1	35.3	58.8	5.9
2	11.8	88.2	0
3	14.7	58.8	26.5
課題	41.2	44.1	14.7
態度	38.2	52.9	8.8
3	55.9	29.4	14.7

3. 授業

番号	A	B	C
1	47.1	47.1	5.9
2	23.5	64.7	11.8
3	23.5	61.8	14.7

4. 家庭学習

平均	36分
----	-----

時間	人数
0	0
1 ~ 30	11
31 ~ 60	10
61 ~ 90	4
91 ~ 120	2
121 ~	0

5. テスト結果

テスト内容	A	B	C
漢字の読み	44.1	35.3	20.6
漢字の書き取り	32.4	41.1	23.5
息	2.9	44.1	52.9
会話文の区別	50.0	50.0	0
読解 五	73.5	5.9	20.6
読解 六	58.8	29.4	11.8

6.バズの時の班内における態度の比較

(ア)

班員	自分自身			班内の他の人		
	1	2	3	1	2	3
a (男)	A	A	A	A	A	A
b (男)	A	A	A	A	A	A
c (女)	C	C	C	A	A	A
d (女)	B	B	A	A	A	A

(イ)

	自分自身			班内の他の人		
	1	2	3	1	2	3
e (男)	B	A	A	B	A	A
f (男)	B	B	B	B	A	B
g (女)	A	A	A	B	B	B
h (女)	A	A	A	B	A	A

〈自己評価についての考察と反省〉

1. 全般的に見て、Bに○印をつけた生徒が多いのは、気軽に印をつけられるのと実践が浅いため、生徒も自分の評価基準がつかめていないからだろう。評価をしている時「先生」AとBの中間ぐらいはどちらに○印したらええん？」などの質問が出たことからもうかがえる。
2. 個人思考の項で、課題（認知）と態度がほぼ同じようなパーセントを示している。これは課題と態度の相互作用の現れだと受け取る。
3. 課題についての系統は、1の課題1、2の課題1、3の3となる。1の項では20.6パーセントもわかっていない生徒がいるのに、2の項になると5.9パーセントに減り、反対に、よくわかった生徒が約2倍の35.3パーセントと増している。これこそバズ学習の効果の現われではなかろうか。

次に理解度についてみると、1の課題2と2の課題2になるわけですが、2の項のCが0パーセントになっていることから、個人思考では、理解できなかったと判断したが、バズをする中で、自分のやったことも少しはあっていたのだという満足を持った現われであろう。

授業中のバズは教師から見ても活発で楽しいものであった。その現われが2の態度3、3の1の結果である。

4. テスト結果の項をみると、漢字の読み書きと意味ができていない。これはいずれも覚えなければならないものである。

家庭学習の平均36分でわかるように、当然の結果と言えよう。意味の項は、授業に簡単にふれた程度で、あとは自分で調べておくようにしたためにあのような結果が出てきたのだろう。今後、授業でおさえておく必要がある。

これらの項目に比べ、会話文の区別と読解がよく出来ているのは、授業中にだいたい理解できていたからであろう。ある生徒は反省の欄に次のように書いてある。「ぜんぜんテスト勉強をやっていない。授業中だけまじめにした」と。この生徒の自己評価は上から順に、B

、B、B、A、A、Aとなっている。このことからもうかがえる。

5. 6の(ア)をみると「この班は男子が活発で女子が消極的である」と言える。その中でも特にCは、自分以外の班員は活発に楽しくやっていると思いつつも、自分は班内にとけ込んでいけないのだろう。他の班員はCも協力して楽しくやっていると見ているところからするとCに個人指導する必要がある。

6の(イ)の班は(3)の班とは逆に女子が活発にリードしている。班内の他の人の項の1が全員Bになっているのは、男子の積極的参加が欠けていることを全員認めているからであろう。

以上のように考察してみると、……

- 課題一覧表の中心課題と課題解決の手がかりをもっとわかりやすく具体的にしないで
- 自己評価を続けていくことにより、家庭学習の必要性を生徒に気付かせる。
- 個人的なアドバイスや、班内でのバズの項についての話し合いを持つべきである。

このような反省点がでてくる。

5. おわりに

基礎学力が低く、離島であるため文化の影響からとり残された本校の生徒に、学習意欲を持たせるためには、どうしてもわかりやすく楽しい授業を創業を創造しなくてはならない。

そのためには、具体的でわかりやすい課題と、自分のつまずきに気づき、自分でそのつまずきを克服していける評価が必要です。

校内における日ごろの取り組みをまとめてみましたが、研究実践も残く、十分な成果をみるに至っていないことを深く反省し、今後は、断続した研究実践活動を続けていきたい。

実践した評価例(国語科)

春日井市立東部甲学校

(1) 学習過程における評価(例1)

(2) 分野別の評価

ア 聞くこと 話すこと(例2)

イ 読むこと(例3)

ウ 書くこと(例4)

エ 文法(例5)

(3) 朗読学習の評価(例6)

ハ 読

例1 小説の「心理の読解」における評価例

○ 教師の指導・調整のための評価

1. 予習課題を何人やらできたか。(挙手)
2. 課題がよく理解できたか。(生徒の反応)
3. 自分のもってきた課題はなにが。(発表)
4. 気持ちの流れにグングン入ることができたか。(生徒の反応)
5. 心理を示す言葉に傍線を引き推移を考えたか。(机間巡視)
6. 文学の特徴(読者の心をかきぶり、感動をもたせ、何があるかの中に刻み込むこと)が理解できたか。(挙手)

○ 生徒の学習の調整のための評価(自己評価・相互評価による)

1. 理解したことを他人に説明できたか。(発表)
2. 他人の発表をきいて、どの考えが適切か、また、自分との相違点・共通点を指摘できるか。(発表)
3. 具体的な体験に基づいて説明できたか。(発表)
4. 心理の推移をノートにまとめることができたか。(ノート)
5. 自分のまちがえた点を反省らんに書けたか。(ノート)

○ 班活動の調整のための評価

1. 話し合いの技術や態度はどうであったか。(班長による評価)

例2

「経験した事の中から」一主題のほかに二語を添える
評価の観点

- 1 主題がはっきりしているか。
- 2 語の材料がよいか。
- 3 語の切り出しに工夫があるか。
- 4 「語の結句」に工夫があるか。
- 5 語の大きさは適当であるか。
- 6 声の速さは適当であるか。
- 7 一息づかいはあるか。
- 8 声の抑揚に工夫があるか。
- 9 語り姿勢・態度がよいか。

★主題

★材料

★得点

○参加点

	10
	63
	27

○生徒層査点

○先生層査点

合計点

100

一年組 番号

〈走れメロス〉 課題表

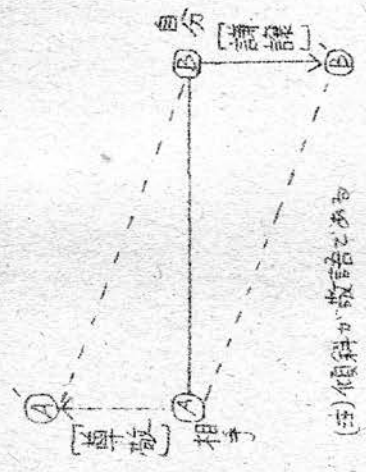
	P	課題	評面 ○×
1	156~158E22	。なぜ、メロスは激怒したのか。	
2	158E22~161E22	。主に何を約束したのか。 ・王の愛とその考え方 ・メロスの態度とその考え方 ・メロスの弱み ・王のたくらみ ・セリアン、ウスケの友情	
3	161E22~163E22	。妹の結婚式でメロスは何を考えたか。 ・疲れきったメロス ・結婚式のしづく ・ほなやかの祝宴と天候 ・未練の情	
4	163E22~167E22	。走れメロスの気持ち ・未練の情をぶらさぎ、て走るメロス ・四つの障壁	
5	167E22~171E22	。疲れはてたメロスの気持ち ・あはしは勇けたのだ ・裏切り	
6	171E22~174E22	。必死で走れメロスの中 ・メロスを走らせたいもの ・刑場でのメロスとセリアン、ウスケの気持ち ・王の気持ち ・群衆の気持ち ・メロスの赤面	

例4

	<p>構想の玉 (俳句・短歌) 組 巻 名</p>
作品	
なぜこの作品を 選んだか(理由)	
感想 感じたこと 想像したこと 好きところ ほか	
上	季節感をあらわすこと
ポイント	季節や場所の持つふんわり感や印象 情景
夢	作者の目(感じ方として)
鑑	作者の活動(感動中心)
	技巧(表現の工夫)
	作者のその美しさ
	作者の背景(時代・社会・地域など)
はじめ	
なか	
おしま	

例5

尊敬と謙讓。敬語の関係を図で示すと次のようになる。
説明しなさい。



(説明)

文をつかえし理由

例6 2年生3クラス 120名で実態調査する。(数字はパーセント)

	ほし		まよまよ		いいえ	
	前	1ヶ月後	前	1ヶ月後	前	1ヶ月後
1.読む姿勢や態度が正しかったか。	21.7	71.6	60.0	25.8	18.3	2.6
2.口をはきり開いて発音できたか。	16.6	51.6	70.9	41.6	12.5	6.8
3.文字や語句がまちがえなく読めたか。	10.8	45.8	69.2	45.8	20.0	8.4
4.つかえずに読めたか。	11.6	30.8	71.8	61.6	16.6	7.6
5.句読点に注意して読めたか。	41.6	41.6	45.1	49.1	13.3	9.3
6.読む速さは適切であったか。	39.1	50.8	46.8	40.8	14.1	8.4
7.間のとりが適切であったか。	15.0	34.1	60.0	57.5	25.0	8.4
8.抑揚に気をつけて読めたか。	16.6	33.3	50.9	41.6	32.5	25.1
9.声の調子は適切であったか。	16.6	35.0	45.1	58.3	38.3	6.7
10.文章構成を覚えて意味のたまりをつかんで朗読できたか。	12.5	15.8	43.4	66.6	44.1	17.6

○生徒の感想

- ・しどろどろ朗読力がつくように思う。
- ・へたな子でも少しは上手になるから続けた方がいい。
- ・少しでもうまくなっていくのもっとやりたい。
- ・何度も続けているうちに○かぶえ、うまくなった。
- ・ある程度「読み」に対して意識するまで上達した。
- ・学習するようになり、細かいところまで気をつけて読むようになった。
- ・評価表があることでどんなところに注意したらよいかわかっていい。
- ・自分の欠点がよくわかった。
- ・△や×が多いともっと上手になりたいと思う。
- ・みんなの意見ももらって次に読む時の参考になる。
- ・読むことが好きになった。
- ・黙読でほんとうに読めていたかわからなかったが、朗読するとよくわかるようになった。
- ・自分が「水ほどバカで(漢字がよめない)とはきすかなかった。そこで練習してくるようになった。

唐詩鑑賞ポイント表

() 組 () 番 ()

ポイント	杜甫	李白	王維
1. 詩の形式がわかるか	---	---	---
2. 表現の特徴(対句など)がわかるか	---	---	---
3. 通釈(口語訳)ができるか	---	---	---
4. 作者の気持ちをはつかめるか	---	---	---
5. 情景がはつきりするか	---	---	---
6. 原文を書き下し文ができるか	---	---	---
7. 暗誦できるか	---	---	---